

令和2年度
（2020年度）

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

令和2年度(2020年度)業務年報

目 次

I 大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1 農林水産研究指導センターの組織	1
2 各所属の業務・試験研究	2
3 試験研究課題の重点化と評価の徹底	3
4 情報発信機能の強化	7
5 試験研究機関の連携推進	10
6 研究員の資質向上	10
7 知的財産権の取得状況	15
8 九州大学との連携	16
9 受賞、学位取得の状況	17
10 主要な行事・会議等	18
11 予算概要	18
II 研究部・グループの概要	19
1 農業研究部	19
2 水田農業グループ	26
3 果樹グループ	31
4 花きグループ	36
5 畜産研究部	39
6 林業研究部	46
7 きのことグループ	50
8 水産研究部(北部水産グループ含む)	56
農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先	64

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

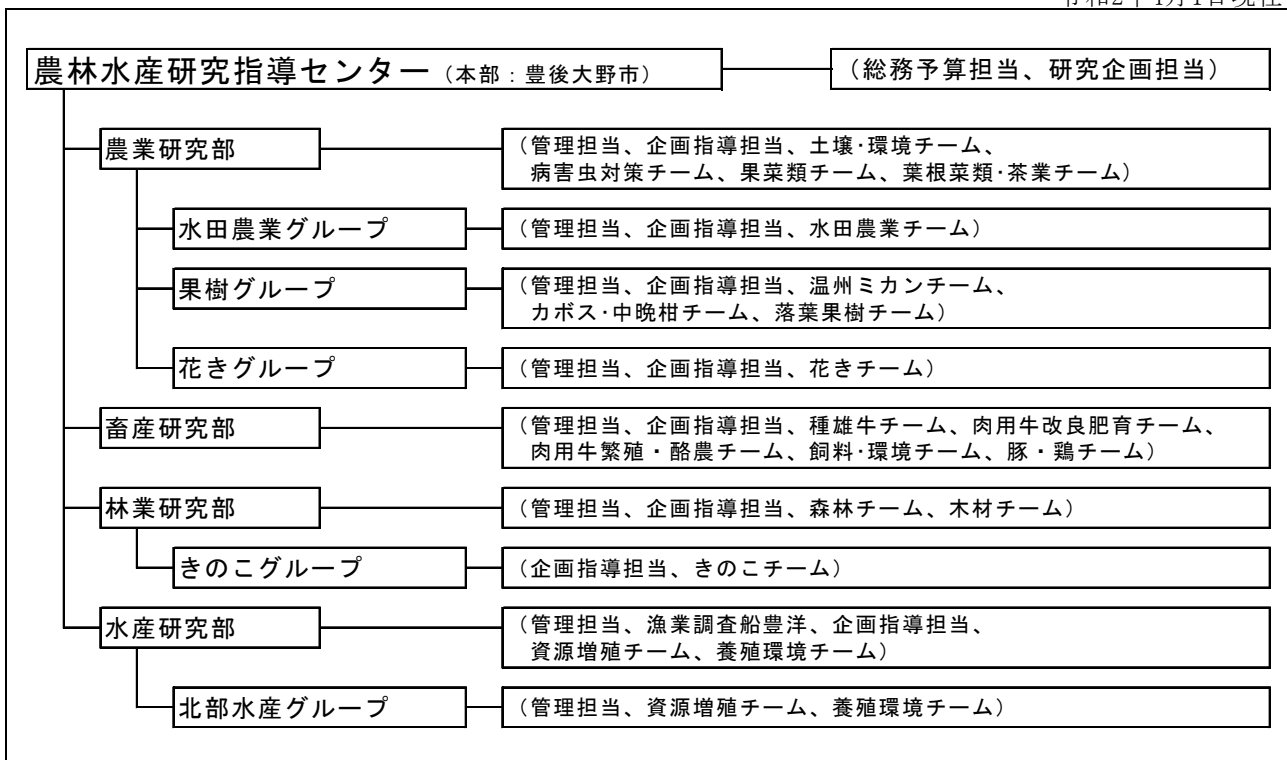
平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した。その後の農林水産業を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及に向けて研究指導體制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。同時に、環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編するとともに、効率的・効果的な研究開発に向け、チーム制を導入した。また、組織全体を統括するため、センター長、管理調整監、研究企画監、総務予算担当、研究企画担当を豊後大野市に配置した。その後も、実情に応じ各チームの再編や名称変更等を行い、現在の組織体制に至っている。

平成28年3月には「変化に対応し、挑戦と努力が報われる農林水産業を実現するための研究開発を行う」ことを基本理念として、「大分県農林水産試験研究基本指針（令和2年3月改訂）」を作成し、成果の活用先（ターゲット）を明確にして経済性を重視した研究開発を行い、農林水産業の創出額増加に寄与することとしている。

引き続き、研究員自らが普及指導員等と一緒に生産現場に赴き、開発した技術を生産者へ普及・指導できるよう、豊後大野市のセンター本部では試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、試験課題評価・成果公表、研究員の資質向上等の業務を行う。

農林水産研究指導センターの組織体系

令和2年4月1日現在



農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

令和2年4月1日現在

機関	事務吏員	技術吏員					技能職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究指導センター(本部)	3		6			6		9
農業研究部	5	35	1	4		40	7	52
水田農業グループ	3	9	1	1		11	5	19
果樹グループ	1	14	1	2		17	5	23
花きグループ	1	8	1			9	4	14
畜産研究部	4	24	2	2		28	26	58
林業研究部	2	12	1			13	1	16
きのこグループ		6	1	2		9		9
水産研究部	3	17	1		7	25		28
北部水産グループ	1	11	1			12		13
合計	23	136	16	11	7	170	48	241

2. 各所属の業務・試験研究

所属名	主な業務・研究内容
農林水産研究指導センター(本部)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定、栽培技術改善 ○稲・麦・大豆の優良種子生産 ○水田畑地化を実現するための技術開発 ○水田大規模経営体の生産性向上を目的とした技術開発
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○バイオ技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給 ○肉用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○乳用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給 ○家禽の育種並びに飼養管理技術
林業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○育種・育林技術、病虫獣害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、木竹材製品開発 ○林業に関する研修及び現地指導
きのこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定に関する研究
水産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○養殖技術の開発、魚介類の疾病対策、漁場環境保全、水産物の品質向上技術
北部水産グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術及び資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

3. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

試験研究を効率的に実施するため、課題数を概ね100課題に厳選し、さらに試験研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間以内としている。

また、現場ニーズを広く収集し、農林水産業の振興や県民生活の向上などに資する試験研究を行うために、ホームページや文書などで一般県民や生産者、関係団体などに試験研究課題に対する要望調査を行い、関係者等から151件の要望を収集した。

研究課題の設定にあたっては、収集した要望の中から試験研究として取組可能な課題を選定のうえ事前評価（部門別評価及び全体評価）を行い、さらに研究課題が決まった後には試験研究進行管理と事後評価（結果検討）を行った。なお、評価結果はホームページにて公表した。

（1）事前評価

1）試験研究課題調整会議

収集した要望の中から試験研究として取組可能な課題を選定するため、各所属単位で開催し、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性など全ての観点から、開発しようとする技術の内容や手法を精査し、次年度に向けた課題実施の適否について判断した。

2）試験研究課題検討会

課題調整会議で絞り込んだ要望課題に対して、現場ニーズに合致した試験研究計画とするため、各所属単位で開催し、研究員、関係課・室、普及指導員等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

3）部門別評価会議：7月13日～15日（書面による評価）

試験研究課題にかかる県庁関係課・室班総括、振興局の関係する班総括及び生産者団体の役職員を部門別評価者とする試験研究部門別評価会議により、「政策的妥当性」及び「試験研究開発効果」について評価を受けた。

4）全体評価会議：8月24日～26日（書面による評価）

外部評価委員会（有識者、学識経験者、流通関係者、生産者代表）及び企画評価会議（部局横断的な視点から農林水産関係試験研究の企画戦略面での提言・助言を行なもの）をもって構成する全体評価会議により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的效果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

令和2年度 大分県農林水産部試験研究外部評価委員

分野	委員名	役職等	選定理由等
有識者	うえまつ やすなり 植松 康成	(株)日本政策投資 銀行 大分事務所長	地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。
学識経験者	たてまつ ようこ 立松 洋子	(元)別府大学短期大 学部食物栄養科 教授 ・学科長	食品、教育の造詣が深く、食育への取り組みを踏まえた評価が期待できる。
流通関係者	ながお きくお 長尾 喜久男	京都青果合同(株) 執行役員	大分県マーケティングアドバイザーであり、大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。

分野	委員名	役職等	選定理由等
流通関係者	ふくやま ひろひさ 福山 博久	イオン九州(株) コーポレートコミュニ ケーション部マネー ジャー	大分県マーケティングアドバイザーであり、大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
生産者代表	(農業) むらかみ えり 村上 枝里	株式会社村上農園 取締役	にら経営（大分市最大） 栽培管理・出荷調整部門の責任者として自社農場の運営を行っており、生産性向上への技術改善に積極的に取り組んでいる。
	(農業) きむら ふさお 木村 房雄	ハウスみかん生産者	大分県柑橘研究会会長 JAおおいた杵築地域柑橘研究会会長
	(畜産) うえき ようこ 植木 陽子	畜産農家	大分県農業協同組合の経営管理委員を歴任 知見が広く幅広い助言が期待できる。
	(林業) くどう よういち 工藤 洋一	久大林産(株) 代表取締役	認定林業事業体の取締役であり、主に素材生産、造林請負業を営んでいる。 大分県西部地域林材業労働安全対策連絡協議会委員 玖珠木材協同組合副理事長
	(水産) わたなべ ひでとし 渡邊 英敏	小型底曳網漁業者	大分海区漁業調整委員会委員 大分県漁業士連絡協議会会長 大分県漁協宇佐支店底曳網協議会会長

(令和2年4月1日現在)

5) 令和3年度研究課題の決定

部門別評価で総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題については、次の全体評価に進むことができる(この時点で60点未満のものについては全体評価対象課題から除外となる)。今回、部門別評価を受けた新規候補課題数は23課題であり、すべての課題は総合得点が60点以上であり、全体評価の対象課題となった。

全体評価では、総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題を令和3年度予算要求課題候補にすることとしており、今回、全体評価を受けた23課題はすべて総合得点が60点以上であった。

6) 推進本部会議による承認：9月24日

農林水産部長、審議監、関係課・室長、農業大学校長から構成される推進本部会議を開催し、全23課題について、令和3年度予算要求候補課題として承認された。

(2) 事後評価（試験研究結果の検討）

現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、各所属で試験研究終了の翌年度に試験研究結果検討会を開催し、研究目標等に対する達成状況について検証した。

(3) 農林水産試験研究アドバイザー

各所属の内部会議等に招集するなど、大学や国立研究開発法人等の研究者や専門的な知識・経験を有する有識者などのアドバイザーから、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

大分県農林水産研究指導アドバイザー(令和2年4月1日～令和2年9月30日)

	所 属 名	職 名	氏 名
農業研究部 (土壌・環境)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 生産環境科学講座	教授	平舘 俊太郎
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 土壌肥料グループ	グループ長	小林 創平
農業研究部 (病害虫)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害グループ	グループ長	宮坂 篤
	一般社団法人 九州病害虫防除推進協議会	会長	山中 正博
農業研究部 (野菜)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生物科学講座	教授	尾崎 行生
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域	園芸研究 領域長	山崎 篤
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畑作研究領域 畑機械・栽培グループ	グループ長	石井 孝典
農業研究部 (茶業)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 茶業研究領域茶育種ユニット(金谷茶業研究拠点)	上級研究員	吉田 克志
水田農業 グループ	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生産生態学講座 九州大学農学部附属農場	教授	望月 俊宏
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作研究領域 水田栽培グループ	グループ長	中野 洋
果樹 グループ	国立大学法人 鹿児島大学	名誉教授	富永 茂人
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	九州沖縄果樹 研究調整監	根角 博久
	国立大学法人 鳥取大学	理事・ 副学長	田村 文男
花き グループ	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域	上級研究員	今村 仁
	東海大学	名誉教授	田中 孝幸
	宇田花づくり研究所	代表	宇田 明
畜産研究部	国立大学法人 広島大学 大学院統合生命科学研究科	教授	島田 昌之
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 農学部附属農場 高原農業実験実習場 家畜生産生態学講座	准教授	高橋 秀之
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域	畜産草地研究 領域長	山田 明央
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域 肉用牛生産グループ	グループ長	竹之内 直樹
林業研究部	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場	育種課長	久保田 正裕
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	野宮 治人
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座	准教授	藤本 登留
きのこ グループ	国立大学法人 琉球大学農学部 亜熱帯生物資源科学科 生物機能開発学分野 林産科学研究室	教授	高島 幸司
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	グループ長	宮崎 和弘
水産研究部	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 生命機能科学分野 生物機能分子化学講座 水族生化学分野	副研究院長	中尾 実樹
北部水産 グループ	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 海産無脊椎動物研究センター	センター長	太田 健吾
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教授	村瀬 昇

農研機構 10名、森林機構 3名、水研機構 2名、大学 11名、その他 2名 合計 28名

大分県農林水産研究指導アドバイザー(令和2年10月1日~令和3年3月31日)

	所 属 名	職 名	氏 名
農業研究部 (土壌・環境)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 生産環境科学講座	教授	平舘 俊太郎
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 土壌肥料グループ	グループ長	小林 創平
農業研究部 (病害虫)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 生物的防除研究施設	准教授	上野 高敏
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害グループ	グループ長	井上 博喜
農業研究部 (野菜)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生物科学講座	教授	尾崎 行生
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域	園芸研究 領域長	山崎 篤
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畑作研究領域 畑機械・栽培グループ	グループ長	石井 孝典
農業研究部 (茶業)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 研究推進部	茶業連携調整役	吉田 克志
水田農業 グループ	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生産生態学分野 農学部附属農場	助教	安彦 友美
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作研究領域 水田栽培グループ	グループ長	中野 洋
果樹 グループ	国立大学法人 鹿児島大学	名誉教授	富永 茂人
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	九州沖縄果樹 研究調整監	根角 博久
	国立大学法人 鳥取大学	理事・ 副学長	田村 文男
花き グループ	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域	上級研究員	今村 仁
	東海大学	名誉教授	田中 孝幸
	宇田花づくり研究所	代表	宇田 明
畜産研究部	国立大学法人 広島大学 大学院統合生命科学研究科	教授	島田 昌之
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 農学部附属農場 高原農業実験実習場 家畜生産生態学講座	准教授	高橋 秀之
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域	畜産草地研究 領域長	山田 明央
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域 肉用牛生産グループ	グループ長	竹之内 直樹
林業研究部	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場	育種課長	久保田 正裕
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	野宮 治人
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座	准教授	藤本 登留
きのこ グループ	国立大学法人 琉球大学農学部 亜熱帯生物資源科学科 生物機能開発学分野 林産科学研究室	教授	高島 幸司
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	グループ長	宮崎 和弘
水産研究部	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准教授	島崎 洋平
	国立大学法人 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准教授	北村 真一
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種部長	照屋 和久
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種基盤 グループ長	岡本 裕之
北部水産 グループ	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 生産技術部	副部長	太田 健吾
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教授	村瀬 昇

農研機構 10名、森林機構 3名、水研機構 4名、大学 12名、その他 2名 合計 31名

4. 情報発信機能の強化

(1) 研究Now

研究成果等を「研究Now」と題してホームページに月1回のペースで掲載し、研究内容を分かりやすく紹介した。

令和2年度 研究Now 一覧

vol.	公表日	所属	タイトル
99	R2. 4. 30	水産研究部	ICTを活用した24時間リアルタイム赤潮監視体制の構築
100	R2. 5. 29	花きグループ	遺伝子マーカーを用いた県育成イチゴベリーツ（大分6号）の判別法の確立
101	R2. 6. 15	畜産研究部	豚肉のブランド化を支える！豚肉脂肪中「オレイン酸」の簡易測定方法を開発
102	R2. 8. 5	果樹グループ	施設カンキツにおける「赤色ネット」のアザミウマ類侵入軽減効果を検討しています！
103	R2. 8. 21	農業研究部	一番茶における摘み取り適期の予測技術について
104	R2. 10. 7	畜産研究部	開放型豚舎でのLED光線管理による効率的豚人工授精法を研究しています
105	R2. 10. 30	林業研究部	スギさし木苗増産に向けたミニ穂の活用
106	R2. 12. 7	農業研究部	保護殺菌剤マンゼブを用いた効果的なネギべと苗防除体系の確立
107	R2. 12. 18	水田農業グループ	麦の上から堆肥散布で農家も儲かり、田んぼも元気！
108	R3. 1. 5	畜産研究部	種雄牛「平安福」県畜産共進会（肉牛の部）で高成績、後継種雄牛も造成中
109	R3. 3. 22	北部水産グループ	養殖用ヒジキ人工種苗ロープの量産化技術の開発
110	R3. 3. 31	果樹グループ	いいとこ取りのマルドリ方式！おいしいかんきつを安定生産！

(2) 普及カード

各研究部・グループが実施した研究のうち、生産現場に普及すべき成果（令和元年度までに成果が得られたもの）を「令和元年度普及カード」として生産者及び関係者向けに作成しホームページで情報提供を行った。

令和元年度 普及カード一覧

No	研究機関名	タイトル	研究課題名	試験年度 期間	公開	資料
1	農業研究部	夏秋トマトの内容成分の推移	大分県産夏秋野菜の栄養・機能性評価	H29～R1		○
2	農業研究部	夏秋ピーマンの栄養・機能性成分について	大分県産夏秋野菜の栄養・機能性評価	H29～R1		○
3	農業研究部	イネいもち病のレース検定結果	稲こうじ病、いもち病に対する新たな防除体系の構築	H29～R1		○
4	農業研究部	ドローンを使った粒剤散布による稲こうじ病防除の検討	稲こうじ病、いもち病に対する新たな防除体系の構築	H29～R1		○
5	農業研究部	イチゴ「ベリーツ(大分6号)」のセルトレイ親株管理を基本とした5月鉢上げの対応技術	イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立	H28～R1	○	
6	農業研究部	イチゴ高設栽培のかん水施肥管理技術の確立	イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立	H28～R1	○	
7	農業研究部	裂果が少なく、着果の良い夏秋トマト品種「麗月」	「赤採りトマト」の周年供給体制の確立	H29～R1		○
8	農業研究部	パプリカの生育調査による環境制御技術	作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築	H28～R1		○
9	水田農業グループ	醤油用・パン用小麦「はるみずき」の特性	①奨励品種決定調査 ②水田農業転換期を支える多収型優良品種導入に向けた栽培法の確立	①H29～R1 ②R1～R3	○	
10	果樹グループ	「大分果研4号」外観品質の向上技術の確立	県南地域を支える地域特産中晩柑の高品質・安定生産技術の確立	H29～31	○	
11	果樹グループ	「大分果研4号」樹勢強化技術の確立	県南地域を支える地域特産中晩柑の高品質・安定生産技術の確立	H29～31	○	
12	果樹グループ	汚泥肥料を用いた大苗育成と定植後の生長促進	若者に魅力ある所得2倍の高収益、早期成園化技術「ナシ流線型仕立」の確立	H29～31	○	
13	果樹グループ	「シャインマスカット」の簡易貯蔵技術	いつも美味しい「おおいたシャインマスカット」生産技術の確立	H29～31	○	
14	花きグループ	1月出荷ヤマジノギク栽培に対する高品質化のための電照方法	他産地の追随を許さない！ホオズキ栽培技術の確立	H29～R1	○	
15	林業研究部	次世代の森林づくりに向けたヒノキ優良品種の選抜	次世代の森林づくりに向けたヒノキ優良品種の選抜	H29～R1		○
16	林業研究部	一般流通製材を用いた大断面柱材の開発	一般流通製材を用いた大断面柱材の開発	H29～R1		○
17	水産研究部	医薬品やワクチンのない疾病への対策	魚病リスク回避型養殖技術開発研究	H29～R1		○

（3）刊行物等の発行

センターの取組を刊行物またはホームページにて広報した。

刊行物誌名	刊行年月日	页数	部数	備考
平成31（令和元）年度業務年報	R2.10.30	66	HP掲載のみ	

（4）農林水産研究タイムリー情報

平成29年8月から、一定の成果が得られた報告（普及カードや研究Now等）以外の日常的な取組（トピックス等）を「農林水産研究タイムリー情報」として県庁ホームページに掲載している。令和2年度の実績は以下のとおりである（計333件発信）。

農業 190件（農業研究部 60件、水田農業グループ 10件、果樹グループ 51件、花きグループ 69件） 畜産 15件（畜産研究部 15件） 林業 27件（林業研究部 16件、きのこグループ 11件） 水産 99件（水産研究部 28件、北部水産グループ 71件） 本部 2件
--

（5）農林水産研究指導センター研究状況報告会及び知事報告

試験研究活動や成果を知事・副知事及び県庁職員へ広く情報を提供するために実施した。

年月日	場所	課題	主な聴講者
R2.9.2	82 会議室	研究状況報告会 ①野生ブドウ「エビヅル」を用いた醸造用ブドウ新品種の育成について （果樹グループ 落葉果樹チーム 研究員 永松千枝） ②薬剤を用いた輪ギクのわき芽抑制手法の確立（中間報告） （花きグループ 花きチーム 主幹研究員 渡邊英城） ③LED 光線管理による効果的な豚人工授精法の確立 （畜産研究部 豚・鶏チーム 研究員 仁田坂俊輔） ④原木乾シイタケ栽培技術の改善・開発 （きのこグループ きのこチーム 研究員 十時しおり）	副知事、 部長、審議監、 関係課・室長他
R3.1.19	知事室 第一応接 室	知事報告 ①「野生ブドウ「エビヅル」を用いた醸造用ブドウ新品種の育成について」 （農業研究部 果樹グループ 落葉果樹チーム 研究員 永松千絵） ②「杵築市守江湾におけるアサリ母貝団地の造成」 （水産研究部 北部水産グループ 資源増殖チーム 主幹研究員 林亨次） ※上記の他に、農業普及関係の2課題が報告された。	知事、 部長、 センター長、 所属長、 関係課・室長他

5. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関の機能強化、技術向上及び業務の効率化等の円滑な運営を図るため、各機関が総合的かつ有機的な連携体制を構築することを目的として、平成22年度に衛生環境研究センター、産業科学技術センター、農林水産研究指導センターの3機関で大分県試験研究機関連携会議を設置した。また、令和元年度から警察本部 刑事部 科学捜査研究所を加えた4機関の体制となった。

なお、令和2年度の事務局は農林水産研究指導センター、下記のとおり4機関の連携を深めた。

開催日	場所	内容
R2.6.25	産業科学技術センター	本年度の活動体制・内容確認の打合せ会議
R2.7.14	農林水産研究指導センター 林業研究部 きのこグループ	令和2年度第1回大分県試験研究機関連携会議 (令和元年度事業報告、令和2年度事業計画、きのこグループ見学)
R2.9.29	産業科学技術センター	SDGsを考える研修会
R3.3.16	産業科学技術センター	令和2年度第2回大分県試験研究機関連携会議 (令和2年度事業報告、意見交換) 技術連携の可能性を探る講演会

6. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

所属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
畜産研究部	研究員	林 佑亮	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 (茨城県つくば市)	茨城県	R2.10.29~11.6 (7日間)	鶏の発育性に強く関連するコレシストキニンA受容体遺伝子等の一塩基多型を解析するための専門知識と専門設備使用方法を学び、本県種鶏の遺伝子解析を行なう。
畜産研究部	研究員	原 彰宏	(独法)家畜改良センター (福島県西郷村)	福島県	R2.10.15~10.23 (9日間)	illumina bovineLDチップを用いたSNP型同定の手技を習得し、種雄牛選抜のためのゲノム育種価評価についての知識を学ぶ。また、県内にと畜された黒毛和種肥育牛のSNP型を同定し、ゲノム育種価評価の基礎データとなるデータベースに追加する。

所 属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
水産研究部	研究員	村瀬 直哉	(公社)日本水産資源保護協会 (オンライン開催)	-	R2. 12. 7～R3. 1. 29 (うち 38 時間)	養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術を習得する(養殖衛生管理技術者養成 本科専門コース)。
水産研究部	主任研究員	山田 英俊	(公社)日本水産資源保護協会 (オンライン研修)	-	R2. 7. 3～7. 16 (うち 50 時間)	養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術を習得する[養殖衛生管理技術者養成 本科基礎コース(7月)、本科専門コース(12～1月)]。
					R2. 12. 7～R3. 1. 29 (うち 38 時間)	
水産研究部	研究員	安原 翔太	近畿大学水産研究所	和歌山県	R2. 8. 31～9. 4 (5 日間)	ハダムシ類の陸上水槽での魚体への感染実験を行うため、虫卵採取から暴露までの一連の技術を習得する。
水産研究部	研究員	吉井 啓亮	(国研)水産研究・教育機構水産技術研究所南勢庁舎	三重県	R2. 10. 19～10. 24 (6 日間)	魚介類疾病の的確な診断を行うため、病理組織検査の技術・技法を習得する。
北部水産グループ	研究員	古川 あさひ	(公社)日本水産資源保護協会 (オンライン開催)	-	R2. 7. 3～7. 16 (うち 50 時間)	養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術を習得する(養殖衛生管理技術者養成 本科基礎コース)。
北部水産グループ	主任研究員	都留 勝徳	(国研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産技術研究所	広島県	R2. 11. 9～11. 12 (4 日間)	有害・有毒プランクトンの特性や同定、採集方法を学び、専門知識・技術向上を図る。

(2) 長期派遣研修

該当者なし

(3) 新規採用研究員研修

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2. 4. 27	農林水産研究指導センター会議室	8名 (うち新採研究員6名) (うち新採労務技師2名)	講演②「農林水産研究指導センターの概要・役割について」 講師 農林水産研究指導センター 研究企画監 藤谷 信二 講演③「研究員としての心構えについて」 講師 農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 質疑・意見交換

（４）現場体験研修

所属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修内容
農業研究部	研究員	若林 美里	農家 (野菜生産)	臼杵市	R2. 9. 17～9. 19、12. 10、12. 17、 R3. 2. 24～2. 25 日（計7日間）	イチゴの定植、株管理、出荷作業、イチゴ目揃い会見学
農業研究部	研究員	古閑 凜太郎	農業法人 (野菜生産)	豊後大野市	R2. 10. 19～10. 31 日 (うち10日間)	ミツバの栽培作業、出荷作業、そのほかの作業

（５）若手研究員研修

若手研究員の試験研究遂行能力の向上や生産現場の課題解決、また所属を超えた若手研究員同士の情報共有・連携に向け、若手研究員による研究発表を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 2. 19	花きグループ 会議室	35歳以下の若手 研究員等 17名	<p>テーマ「お互いの研究理解を深めよう！～私の研究テーマについて～」</p> <p>①「マルチコプター（ドローン）を活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の開発」 (農業研究部 土壌・環境チーム 研究員 加藤貴浩)</p> <p>②「牛の分娩間隔短縮に向けた臍内留置型発情探知システムの開発」 (畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム 研究員 村上敦哉)</p> <p>③イチゴ新品種の流通加工品質向上に関する研究 (産業科学技術センター 食品産業担当 研究員 安部良樹)</p> <p>④「IoT 技術を用いた赤潮監視の取組」 (水産研究部 養殖環境チーム 研究員 井口大輝)</p> <p>⑤「デコンボリューションを活用した GC/MS における未知試料の分析」 (科学捜査研究所 技術職員 吉川直樹)</p> <p>⑥「農業現場における雑草研究」 (水田農業グループ 水田農業チーム 研究員 河野礼紀)</p> <p>⑦「スギ推奨品種さし木苗の増産に関する研究」 (林業研究部 森林チーム 研究員 姫野早和)</p> <p>⑧「久住高原農業高校とのトルコギキョウ栽培における技術交流」 (花きグループ 花きチーム 研究員 志賀灯)</p> <p>⑨「原木シイタケ単収向上を目指した発生操作技術の確立」 (きのこグループ きのこチーム 研究員 生野柁大)</p> <p>⑩「施設カンキツでの物理的防除によるアザミウマ被害軽減策について」 (果樹グループ 温州ミカンチーム 研究員 那須翔太)</p> <p>⑪「陸上水槽および漁港内におけるマダコ卵のふ化試験」 (北部水産グループ 資源増殖チーム 研究員 崎山和昭)</p> <p>総合討論</p>

（6）中堅研究員研修

中堅研究員を対象に、民間企業や関係機関の方との意見交換を実施し、視野を広げ、試験研究企画及び自己開発能力の向上を目的に研修を実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 3. 10	水田農業グループ会議室	35歳以上の 中堅研究員等 43名	テーマ「大分県の農林水産試験研究の進むべき方向とは」 講演①「次代を切り開く研究者の皆様へ」 講師 農林水産研究指導センター センター長 太郎良 健一 講演②「試験研究でしたことを振り返って」 講師 農林水産研究指導センター農業研究部 水田農業グループ 水田農業チーム チームリーダー 近乗 偉夫 氏 講演③「後輩に贈る言葉」 講師 農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 落葉果樹チーム チームリーダー 草地 千里 氏

（7）チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2. 7. 22	農林水産研究指導センター会議室	チームリーダー 及び 企画指導担当 (総括)等 34名	講演① 「大分県の数値データの利用とバージョンアップの 必要性について」 講師 農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 事例報告および意見・情報交換

（8）マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2. 11. 18	Zoomを利用したWeb開催	研究員等 32名	講演① 「大分県農林水産物の海外輸出戦略について」 講師 おおいたブランド推進課 海外流通班 主幹 片野 晋二郎 講演② 「マーケットインの商品づくりについて」 講師 漁業管理課 団体流通班 マーケター 主査 波多野 良介 講演③ 「輸出・流通の現場が求める試験研究に対するニーズとは？」 講師 農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 質疑応答・意見交換

（9）数理統計研修

農林水産試験研究における数理統計の基礎を学ぶとともに、試験研究の現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2.12.2 ～12.4	県庁舎新館 OA プラザ	研究員等 16 名	「R/Rcmdr/Rstudio の動作確認、統計学概論、データのばらつきの数値化、パラメトリック統計学、実験計画法、多重比較の諸方法、モデル選択論、一般化線形モデル、多変量データと多変量解析」 講師（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 再雇用職員 三中 信宏 氏

（10）知的財産研修

知的財産は新たな付加価値を創出し、ブランド化や産地間競争での優位性を高めるとともに、共同研究や競争的研究資金を獲得する上で有効なものである。令和2年度は、下記研修に研究員等を派遣した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2.11.27	県庁	研究員等 2 名	農林水産省主催の農林水産知的財産保護コンソーシアムによる知的財産活用オンラインセミナーを活用し、改正種苗法に関する知見を深めた。

（11）はやしセミナー

農林水産研究指導センターの研究指導顧問である林浩昭氏がコーディネーターとなり、農業・畜産・林業・水産が抱える共通課題の解決や共通テーマの情報交換を実施し、研究員の資質向上を目的とした「はやしセミナー」を開催した。

はやしセミナー（センター本部主催）

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R2.7.22	農林水産研究指導センター 会議室	研究員等 34 名	【第1回セミナー】※チームリーダー研修と合同開催 「大分県の数値データの利用とバージョンアップの必要性について」
R2.11.18	オンライン開催	研究員等 32 名	【第2回セミナー】※マーケティング研修と合同開催 「輸出・流通の現場が求める試験研究に対するニーズとは？」
R3.2.19	花きグループ 会議室	研究員等 17 名	【第3回セミナー】※若手研究員研修と合同開催 「互いの研究内容について理解を深める」
R3.3.10	水田農業グループ 会議室	研究員等 43 名	【第4回セミナー】※中堅研究員研修と合同開催 「大分県の農林水産試験研究の進むべき方向とは」

出前はやしセミナー（各所属からの要望への対応）

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3.1.14	水田農業グループ 会議室	研究員等 13 名	【出前セミナー】 「プラスチック原料を使用した被覆肥料の製造、流通、利用に係る現状と環境対策等の動向について」

7. 知的財産権の取得状況

令和2年度に新たに登録された知的財産権は、特許が3件、品種が1件であった。なお、令和2年度末までに登録されている特許及び品種は以下のとおりである。

(1) 特許登録

NO.	状況	登録		発明の名称	所属機関	持分割合
		登録番号	登録年月日			
1	登録	3938786	2007/4/6	分娩予知通報システム	畜産研究部	50%
2	登録	4774484	2011/7/8	魚病防除剤及びその製造方法ならびに飼料	水産研究部	40%
3	登録	4783883	2011/7/22	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	畜産研究部	50%
4	登録	4905649	2012/1/20	魚用ワクチン、その製造方法、および魚類感染症の予防方法	水産研究部	1/3
5	登録	5281775	2013/5/31	ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用	畜産研究部	20%
6	登録	5281920	2013/5/31	ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用	畜産研究部	20%
7	登録	5422848	2013/12/6	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	畜産研究部	50%
8	登録	5733829	2015/4/24	凍結された精子用希釈液、及び、これを用いた人工授精方法	畜産研究部	50%
9	登録	5818111	2015/10/9	貝類毒化軽減装置および貝類毒化軽減方法	水産研究部	100%
10	登録	5904369	2016/3/25	精子保存液、精子保存方法及び人工授精方法	畜産研究部	50%
11	登録	5967487	2016/7/15	貝類の育成装置	北部水産グループ	1/3
12	登録	6041238	2016/11/18	ブリ細菌性溶血性黄疸の病原体抗原ポリペプチド、及びこれを含む水産用ワクチン	水産研究部	20%
13	登録	6099048	2017/3/3	茶の施肥方法	農業研究部	50%
14	登録	6291669	2018/2/23	転倒ます型流量計測装置	農業研究部	20%
15	登録	6516252	2019/4/26	根深ネギの大苗育成方法	農業研究部	100%
16	登録	6704562	2020/5/15	赤潮原因ラフィド藻類の光逃避行動を誘導する方法	水産研究部	25%
17	登録	6738071	2020/7/21	長尺育苗容器、連続集合鉢体苗を入れる装置、および、巻き取り器具	農業研究部	100%
18	登録	6804060	2020/12/4	ブタ精子凍結希釈液用添加剤及びブタ精子の凍結保存方法	畜産研究部	50%

(2) 品種登録

NO.	状況	登録		農産物の種類	品種名	所属機関	持分割合
		登録番号	登録年月日				
1	登録	15413	2007/3/23	なし	豊里	果樹グループ	100%
2	登録	17734	2009/3/6	かんきつ	大分果研4号	果樹グループ	100%
3	登録	20806	2011/5/24	トルコギキョウ	チェリービー	花きグループ	100%
4	登録	24322	2015/5/20	トルコギキョウ	チェリービー2号	花きグループ	100%
5	登録	24323	2015/5/20	トルコギキョウ	チェリービー3号	花きグループ	100%
6	登録	24345	2015/6/19	ヤマジノギク	TOYO ロマン2号	花きグループ	100%
7	登録	26579	2018/2/9	大麦	トヨノホシ	水田農業グループ	70%
8	登録	28275	2021/1/26	イチゴ	大分6号	農業研究部	100%

8. 九州大学との連携

九州大学の教育研究並びに社会貢献の進展と、大分県における農林水産業の振興を図ることを目的に、平成19年1月29日に「国立大学法人九州大学大学院農学研究院、大学院生物資源環境科学府及び農学部と大分県農林水産部との連携に関する基本協定」が締結され、平成24年1月28日に5年間の有効期間延長、さらに、平成29年1月28日に再延長を行っている。

連携事項としては、(1)共同研究事業、(2)研究者及び学生の派遣・交流事業、(3)学術研究資料の交換事業、(4)その他、本協定の目的の達成に有益な事業であり、これらを行うために「連携協議会」を設置し、今後の連携交流の円滑な実施及び具体的な事業の推進を図ることとしている。令和2年度は、個別課題における連携強化及び新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来の全員参加型イベントではなく、具体の課題毎に係る研究室と個別にweb会議やメールで協議を行った。

連携協議会開催状況

課題名	連携先	日時	訪問者	内容	課題実施状況
天敵を活用した「おおば」の害虫防除体系の構築	天敵昆虫学研究室 上野准教授	R2. 8. 7	農業研究部 病害虫対策チーム 佐藤 TL、伊藤研究員	・天敵生物の体系、天敵生物の取り扱い方、国内外における天敵生物の最新の情報を得ることができた。 ・試験研究アドバイザーへの就任要請。	R3年度より新規課題として実施。 (県単予算：R3～5)
「大分6号」不受精果の発生要因及び対策の検討	蔬菜・花卉研究室 平田助教	R2. 8. 28 (Web)	農業研究部 果菜類チーム 研究員他	・不受精果発生要因解明のための検討事項を提案してもらった。 ・研究室との連携についても、今後検討を継続する	研究課題：「ベリーツ（大分6号）」の高品質安定生産技術の確立 (県単予算 R2：～4)で実施中。
転炉スラグの活用拡大について	土壌学分野 平館教授	R2. 10. 1 (Web)	農業研究部 土壌・環境チーム 研究員他	・植物体のケイ酸分析の抽出方法、分解方法、土壌条件について助言をもらった。	研究課題：農業分野における転炉スラグの活用拡大に関する技術確立 (県単予算：R2～4)で実施中。
イチゴの高品質多収栽培に向けた環境要因の検討	環境農学部 安武准教授	R2. 8. 6 (メール)	農業研究部 果菜類チーム	・光合成の転流可視化について量子研と九大の共同研究等いくつかの情報を得た。 ・光合成測定方法について助言を得た。	研究課題：「ベリーツ（大分6号）」の高品質安定生産技術の確立 (県単予算 R2：～4)で実施中。
魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	生命機能科学部門 長澤助教	R2. 6. 11 (メール)	水産研究部 養殖環境チーム	・体表粘液を用いた魚の生理状態評価技術の開発について引き続き、連携実施することを確認。 ・当面は採取済みのサンプル解析を実施。	研究課題：魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発 (県単予算：R2～4)で実施中

連携協議会関連行事

開催月日	場所	行事名	内容	参集者
R3. 3. 11	九州大学 九州大学 農学部附属農場 高原農業実験実習場 大分県農林水産研究 指導センター (Web 会議)	九州大学大学院 農学研究院・大分 県農林水産研究 指導センター連 携報告会	① 連携協定について ② 令和2年度までの連携協 議概要について ・大分県農林水産試験研究 アドバイザーについて ・研究者派遣 (博士課程社会人枠) ・主な活動内容について ③ 令和3年度連携協議計画 について ④ 次期連携協定について ⑤ その他意見交換	九州大学大学院 農学研究院 中尾研究院長 九州大学農学部 事務部 総務課 水野総務課長 元村研究協力係長 九州大学農学部附属農場 高原農業実験実習場 高橋准教授 大分県農林水産研究指導センター 太郎良センター長 藤谷研究企画監 徳田

9. 受賞、学位取得の状況

(1) 受賞者一覧

畜産研究部

受賞者	受賞名	表彰授与主体	受賞年月日	受賞の内容
主幹研究員 佐藤 亘	令和元年度 優秀畜産 技術者賞	(公社) 畜産技術協会	R2. 6. 22	遺伝学的研究による優 秀な種雄牛の造成や、 県の肉用牛振興に貢献

きのこグループ (林業研究部)

受賞者	受賞名	表彰授与主体	受賞年月日	受賞の内容
大分県農林水産研究 指導センター林業研 究部きのこグループ 有馬 忍 飯田 千恵美 石原 宏基 宮本 亮平 川口 真司 十時 しおり	第 65 回森林技術賞	一般社団法人日本森 林技術協会	R2. 6. 30	地域森林資源を活用し た菌床きのこ栽培技術 の確立とその普及

(2) 学位取得者

令和2年度に学位（博士）を取得した研究員はいなかった。

令和3年3月末時点での当センター在籍職員の学位（博士）保有者は7名である。

センター所属 : 保有7 (3) *名

(水田1、果樹1、畜産1 (1) *、林業1 (1) *、きのこ1、水産1 (1) *、北水1)

* () 内は会計年度任用職員の内数

センター以外の所属 : 保有8名

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

開催年月日	行事名等	場所
R2.7.13～7.15	農林水産部試験研究部門別評価会議	新型コロナ感染拡大により書面開催
R2.8.24～8.26	農林水産部試験研究全体評価会議	〃
R2.9.24	農林水産部試験研究推進本部会議	県庁

(2) 所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当（総括）等で構成する企画調整会議を開催した。
なお、所属長会議は2回、企画調整会議は4回開催した。

11. 予算概要

令和2年度当初予算（経常的経費〔人件費を除く〕）

（単位：千円）

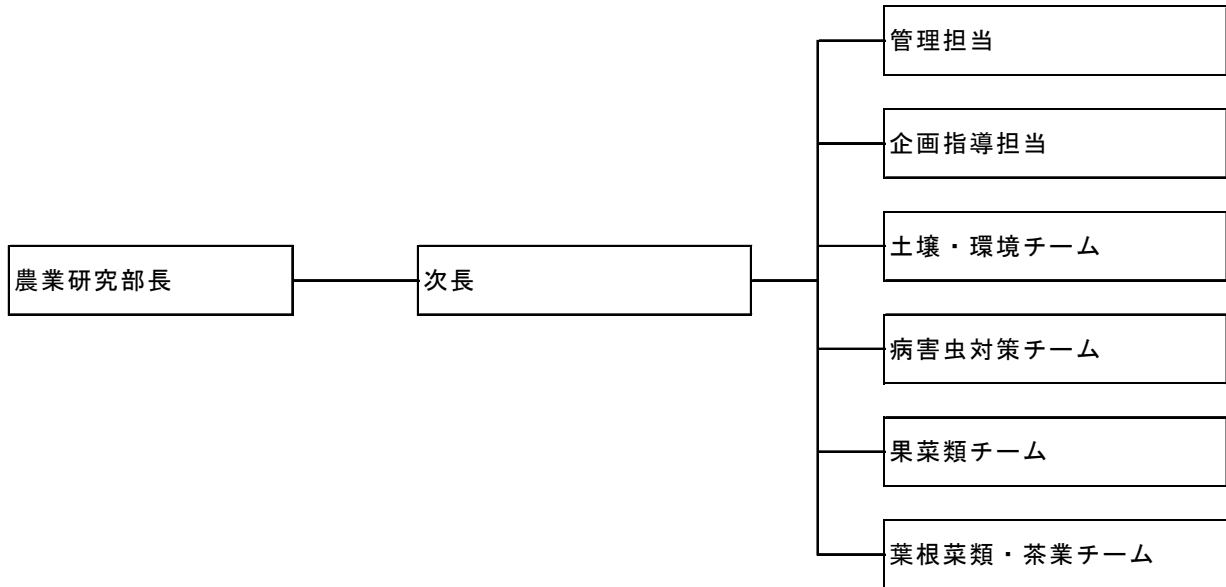
区 分	試験研究調整費	管理運営費 +管理予算	施設整備費	試験研究費	計
試験研究調整費 （農林水産研究指導センター本部）	13,626				13,626
農林水産研究指導センター施設整備事業			86,950		86,950
農業研究部		60,626		50,367	110,993
水田農業グループ		20,175		16,508	36,683
果樹グループ		13,419		27,384	40,803
花きグループ		11,677		17,719	29,396
畜産研究部		64,379		151,294	215,673
林業研究部		18,336		11,495	29,831
きのこグループ				14,193	14,193
水産研究部		29,478		43,185	72,663
北部水産グループ		21,440		22,597	44,037
合計（農林水産研究指導センター）	13,626	239,530	86,950	354,742	694,848

II 各研究部・グループの概要

II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部長	長		1					1	
次長	長	1						1	兼センター管理調整監
管理担当	担当	5						5	
企画指導担当	担当		7					7	広域普及指導員4名
土壌・環境チーム	チーム		7		1			8	
病害虫対策チーム	チーム		9			1		10	
果菜類チーム	チーム		10	3				13	農業技術員1名
葉根菜類・茶業チーム	チーム		6		1	1		8	
計		6	40	3	2	2	0	53	

（3）業務

大分県農林水産試験研究基本指針に基づき、「The・おおいた」ブランドを確立するための産地づくりを技術面から支援する。研究課題の設定にあたり、県が推進する園芸戦略品目を中心に生産者や消費者・実需者のニーズを反映し生産現場に直結する栽培法や新品種を開発・改良・実証する。地域未利用資源の新たな活用方法や品質、収量の向上に加えて、省力化技術など課題を解決するための研究を行う。

企画指導担当

- ①生産者に対する研修および現地指導
- ②試験研究の企画調整、進行管理
- ③研究成果のとりまとめ、研究員の育成

土壌・環境チーム

- ①農産物の安全安心や環境に優しい農業生産技術の研究
- ②未利用資源の農業活用技術に関すること
- ③農産物の栄養・機能性成分の調査、分析に関すること
- ④肥料取締り分析と農業試験検査事務に係る分析
- ⑤IoTなど新技術を活用した野菜類栽培の省力化技術の確立

病害虫対策チーム

- ①IPMに基づいた病害虫防除技術の開発、実証
- ②難防除病害虫、農薬耐性菌・抵抗性害虫対策の組み立て
- ③主要農作物の病害虫発生予察に関すること
- ④国内未発生病害虫に関する植物検疫
- ⑤マイナー作物への適用農薬の登録推進

果菜類チーム

- ①気象変動に対応したトマトのかん水技術と裂果対策
- ②夏秋ピーマンの省力多収栽培技術の確立
- ③イチゴ育種技術の改善と新品種候補の育成
- ④イチゴの高品質安定生産技術の確立

葉根菜類・茶業チーム

- ①根深ネギ、ニラ、カンショ、サトイモ等の栽培技術に関する研究
- ②カンショの品種選定、ウイルスフリー苗の供給
- ③茶の栽培および病害虫に関する研究
- ④茶の品種選定

2. 試験研究課題
農業研究部（1/2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発（イノベーション・流通対策）				
・ 施設葉菜類のハウス内環境制御技術の確立 1) 次世代型土壌水分センサーによる小ネギ栽培の「見える化」技術の構築	土壌・環境チーム	北部振興局	H30～R3	県単
・ 革新的な省力栽培技術の開発 1) マルチコプターを活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の開発	土壌・環境チーム	(株)KMT	H31～R3	県単
2) 労働力不足に対応した施設葉菜類の安定生産技術の確立	葉根類・茶業チーム	-	H31～R3	県単
3) イモ類の産地拡大に向けた省力化技術の確立	葉根類・茶業チーム	-	H31～R3	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発（高品質、低コスト、加工原料生産）				
・ いちごの県オリジナル品種の品種登録と普及 1) 「ベリーツ（大分6号）」の高品質安定生産技術の確立	果菜類チーム	-	R2～4	県単
・ いちごの県オリジナル品種の育成 1) イチゴ育種技術の改善と新品種候補の育成	果菜類チーム	-	H31～R3	県単
・ 新需要に対応した品種選抜と加工技術の開発 1) カンショの品種選定	葉根菜類・茶業チーム	農研機構	長期	県単
・ 市場動向に対応した白ねぎの夏秋期安定出荷技術の確立 1) 大苗利用による根深ネギの夏越し及び初夏どり作型の生産安定技術の確立	葉根菜類・茶業チーム	-	H3～R2	県単
・ 農産物の安全安心に関する研究（薬剤抵抗性害虫の天敵利用技術） 1) 夏秋ピーマンにおける天敵を主体とした害虫防除体系の構築	病害虫対策チーム	中部振興局、豊肥振興局	H30～R2	県単
2) 平坦地に適した根深ネギべと病の防除技術の確立	病害虫対策チーム	北部振興局	H30～R2	県単
3) 県オリジナルイチゴ品種「大分6号」のハダニ類を中心とした主要病害虫の防除体系構築	病害虫対策チーム	地域農業振興課、各振興局	H31～R3	県単
4) 「ベリーツ（大分6号）」における灰色かび病を主体とした防除体系の構築	病害虫対策チーム	各振興局	R2～R3	県単
・ 茶の高品質省力栽培・加工技術の開発 1) 拡大するドリンク茶・点茶碾茶需要に対応した茶生産技術の確立	葉根菜類・茶業チーム	-	R1～3	県単
・ 新資材による低コスト施肥技術の開発 1) 低コストな混合堆肥複合肥料の開発	土壌・環境チーム	㈱菱東肥料、水田農業グループ	R1～3	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発（省力化、大規模化、優良品種）				
・ 果菜類の安定生産技術の開発 1) 気象変動に対応したトマトのかん水技術と裂果対策	果菜類チーム	-	R2～4	県単
・ 夏秋ピーマンの省力・安定生産技術の開発 1) 夏秋ピーマンの省力多収栽培技術の確立	果菜類チーム	-	H30～R2	県単
・ 高品質・安定生産・省力化のための茶園管理技術の開発 1) 茶試験圃場の育成	葉根菜類・茶業チーム	農研機構	長期	県単、一部国庫
・ ウィルスフリー苗の作出 1) イチゴのウィルスフリー苗の育成	果菜類チーム	-	長期	県単
2) カンショの茎頂培養によるウィルスフリー苗育成	葉根菜類・茶業チーム	-	長期	県単

2. 試験研究課題

農業研究部（2 / 2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
2) 研究分野				
I 実用化研究				
・ 委託薬剤試験 1) 安全生産技術に関する研究	病害虫対策チーム	各振興局	長期	県単、一部委託
・ マイナー作物農薬残留調査 1) 農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	病害虫対策チーム	大分県薬剤師会、豊肥振興局	長期	県単
・ 病害虫発生予察情報（普通作・野菜・果樹・茶） 1) 病害虫発生予察事業 2) チャの主要病害虫防除対策	病害虫対策チーム 葉根菜類・茶業チーム	- -	長期 長期	県単、一部国庫 県単、一部委託
II 基礎調査研究				
・ 農業情報の提供（生育状況、気象データ） 1) 農業情報の提供（気象データ）	企画指導担当	水田農業グループ、果樹グループ、花きグループ	長期	県単
・ 土壌情報の活用 1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	土壌・環境チーム	各振興局	長期	国庫
・ 土壌肥料検査業務 1) 土壌肥料検査業務	土壌・環境チーム	-	長期	県単、一部委託
・ 土壌環境調査の実施による企業参入支援並びにほ場整備等の支援 1) 土壌環境調査の実施による企業参入支援並びにほ場整備等の支援	土壌・環境チーム	-	長期	県単、一部委託
・ 地域固有の動植物の保存 1) 地域固有の動植物の保存	企画指導担当	各振興局	長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
大分県農林水産研究指導センター研究報告 （農業研究部編）第7号	R2.6	5	80
大分県農林水産研究指導センター研究報告 （農業研究部編）第8号	R3.3	38	80
令和2年度植物防疫事業成績書	R3.3.30	74	50
令和元年度農業研究部試験研究成績書	R3.3	436	60

（2）学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
加藤貴浩	ドローンを活用した白ねぎの生育診断技術	施設と園芸	191	74
松本翔太	フルトラニル耐性白絹病菌の発生および簡易検定法の開発	植物防疫	74巻 (5号)	39-42
祖田嘉教	大分県における根深ネギベと病の発生状況と防除対策について	農業新時代	第2号	19-24

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 9. 17	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	小野紘平、田中とも子、佐藤如、片岡園、野口裕司	イチゴの循環選抜由来育成系統花粉の利用とその可能性の検討
R2. 9. 17	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	佐藤如、小野紘平、池永亜希子	イチゴ「大分6号」の中休み日数に関する要因
R2. 9. 28	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	山野秀真、玉井光秀、大西健二	マニュアルスプレッダーを用いた転炉スラグの散布労力軽減の検討
R2. 9. 28	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	神崎悠梨、香月望	大分県産夏秋トマトの栄養成分の変動実態と要因
R2. 9. 28	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	加藤貴浩、芦刈正公	マルチコプターを活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の確立
R2. 9. 28	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	香月望、松本寛子、山野秀真、八坂和也	混同堆肥複合肥料を用いたカンショ栽培の検討
R2. 9. 28	第83回(令和2年度)九州農業研究発表会	藤谷涉、玉井光秀	小ネギ栽培における緩行性肥料を活用した環境負荷の軽減
R3. 1. 20	令和2年度 果樹茶業研究会 茶業研究会	村上圭	有機碾茶安定生産技術
R3. 1. 27	九州沖縄農業試験研究推進会議生産環境推進部会	神崎悠梨	大分県産夏秋トマトのβ-カロテン含量の時期別変化
R3. 2. 2	令和2年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜成績検討会	平将吾	大苗利用による根深ネギの夏越し作型の生産安定技術の確立
R3. 2. 2	令和2年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 野菜成績設計検討会	山賀陽子、池永亜希子、佐藤如、上曾山大	「さがほのか」及び「大分6号」における育苗効率化技術
R3. 2. 2	令和2年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 野菜成績設計検討会	三宅美穂、大塚美希	気象変動に対応したトマトのかん水技術と裂果対策（裂果に強い優良品種の選定）
R3. 2. 2	令和2年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 野菜成績設計検討会	大坪亮介、三宅美穂	大苗利用による根深ネギの夏越し作型の生産安定技術の確立
R3. 3. 5	鐵鋼スラグ協会 肥料WG 2020年度報告会	山野秀真	加工業務用野菜の適用品目の検証

（４）研究成果発表会

該当なし

４．研究成果の普及、技術指導

（１）講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 5. 12	ドローン操作研修会	豊後大野市	6	豊肥振興局
R2. 7. 2、3	普及指導員専門技術研修	センター	18	地域農業振興課
R2. 7. 3	専門技術研修（土壌）	豊後大野市	15	地域農業振興課
R2. 7. 29	課題解決研修（野菜部門：ドローン分）	豊後大野市	20	地域農業振興課
R2. 7. 31	スマート農業実証事業現地検討会（ドローン分）	豊後大野市	10	地域農業振興課
R2. 7. 31	ベリーツ栽培技術研修会	JA おおい本店	80	県いちご販売強化対策協議会
R2. 8. 5	白ねぎセンシング現地見学会	豊後高田市	8	北部振興局
R2. 8. 21	トビイロウンカ警報記者説明	県庁報道室	12	農研部、地域農業振興課
R2. 9. 24	水田畑地化にかかる土層改良等研修会	宇佐市	15	園芸振興課
R2. 10. 20	日田市スマート農業推進協議会視察研修（ドローン分）	豊後大野市	10	西部振興局
R2. 10. 26	課題解決研修（普通作物）	宇佐市	15	地域農業振興課
R2. 10. 28	課題解決研修（土づくり）	豊後大野市	20	地域農業振興課
R2. 11. 23	有機農業研修会	野津町公民館	23	有機農業研究会
R2. 12. 23	土壌断面調査研修	由布市	3	地域農業振興課
R2. 12. 27	令和2年度豊後大野市新農業者協議会経営研修会	豊後大野市	20	豊後大野市
R3. 1. 24	サツマイモ基腐病対策会議	Web 会議	30	地域農業振興課主催
R3. 1. 12	土壌断面調査研修	津久見市	5	地域農業振興課
R3. 2. 19	若手研究員研修	花きグループ	70	センター本部
R3. 2. 25	北部地区白ねぎスマート農業技術実演会（ドローン分）	豊後高田市	15	北部振興局
R3. 3. 12	課題解決研修（普通作物部門：ドローン分）	宇佐市	30	地域農業振興課
R3. 3. 12	作物課題解決研修	水田グループ	12	地域農業振興課
R3. 3. 18	農事研修会（土づくりについて）	ホルトホール	40	大分県肥料商業組合
R3. 3. 18	農事研修会	ホルトホール大分	20	食料集荷組合主催

（2）受入研修

① 長期研修者受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
学生	農業大学校	イチゴの硬度調査について	R3. 1～3の間に10回

② 生産者、団体職員、普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	16	100
団体等職員	5	39
普及指導員	20	126
学生	0	0
児童・生徒	0	0
海外からの視察者	0	0
その他	4	22
計	45	287

（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
「ベリーツ」に対する IPM 技術の現地移転	ハダニ対策（ミヤコバンカー）等の普及を図る。併せて、他の微小害虫に対する IPM 技術の導入を図る。	現地3圃場においてハダニ、アブラムシ、アザミウマ対策として天敵を導入した防除体系の実証を行った。
夏秋ピーマンにおける天敵を主体とした害虫防除体系の構築	アザミウマ類対策として、スワルスキーカブリダニの定着を図る。また、土着天敵（タバコカスミカメ）やTSWV抵抗性品種の効果を検討する。	現地4圃場で天敵を用いた現地実証を行い、防除暦を作成した。
ドリンク茶栽培における収量・品質向上のための総合的管理技術	生葉分析結果を用いた、ドリンク茶法人における品質適合率の向上を図る。	現地4圃場における生葉の成分分析結果をもとに摘採適期を予測する技術の普及を目標に巡回指導を行った。

II-2 水田農業グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長	管理担当	3	1					1	
企画指導担当	企画指導担当		2					2	広域普及指導員1名
水田農業チーム	水田農業チーム		8	5				13	
	計	3	11	5	0	0	0	19	

(3) 業務

- ① 稲・麦・大豆の品種の育成・選定、栽培技術改善
- ② 稲・麦・大豆の優良種子生産
- ③ 水田畑地化を実現するための技術開発
- ④ 水田大規模経営体の生産性向上を目的とした技術開発

2. 試験研究課題

水田農業グループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ ICT、RTを活用した生産環境情報収集による低コスト化技術の開発 1) 水田農業の経営安定化に向けた経営最適化システムの開発	水田農業 チーム	振興局	R2~R4	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発				
・ 食味、機能的、安全性などに優れた品種の選定と栽培技術の確立 1) 水田農業転換期を支える多収型優良品種の導入に向けた栽培法の確立 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】	水田農業 チーム	振興局	R1~R6 【R2~R6】	県単 国庫
2) 水稲・麦・大豆の品種選定 【一部令達(地域農業振興課、農地活用・集落営農課) 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】	水田農業 チーム	(国研) 農研機構 農集課、 振興局	R1~R6 【R2~R6】	県単 国庫
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ 土地条件に対応した水稲直播栽培等低コスト栽培技術の確立 1) 経営規模拡大と低コスト化をめざした水稲乾田直播栽培の体系化実証	水田農業 チーム	振興局	R2	県単
水田フル活用に向けた新規需要米 ※、麦・大豆の低コスト安定栽培技術の確立 1) 大規模経営体に対応した麦類の高速播種システムの確立	水田農業 チーム	(株)中 九州クボ タ	R2~R4	県単
・ 農地集積や大区画化に対応した水田営農システムの確立 1) 播種適期の拡大と排水対策による麦類の収量安定生産技術の確立 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】	水田農業 チーム	振興局	H30~R6 【R2~R6】	県単 国庫
・ 帰化植物、薬剤抵抗性等の難防除雑草の防除技術の開発 1) 生育制御と雑草防除による大豆の高位安定生産技術の確立 【外部資金課題名：農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発】	水田農業 チーム	(国研) 農研機構、 振興局	R2~R6	県単 国庫
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発				
・ 焼酎粕等の未利用資源の活用による地域循環型栽培法の確立 1) 麦栽培期間中の堆肥投入による水田地力回復技術の確立	水田農業 チーム	農業研究 部、振興 局	H30~R2	県単
2) 研究分野				
I 実用化研究				
II 基礎調査研究				
・ 主要農作物(水稲、麦類、大豆)の優良種子管理 1) 主要農作物等種子対策事業	水田農業 チーム	農集課、 振興局	長期	県単
・ 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査の情報提供による生産指導支援 1) 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査	水田農業 チーム	農集課、 振興局	長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
小麦「はるみずき」栽培のポイント	R2. 10	4	800
はだか麦「ハルアカネ」栽培のポイント	R3. 3	4	800

（2）学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
河野礼紀、柿原千代文、 近乗偉夫、松尾光弘、 西脇亜也	大分県のダイズ作における雑草の発生実態	雑草研究	65巻 (2号)	31-40

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 4. 11、12	日本雑草学会第59回大会	河野礼紀	大分県の高原地域におけるアレチウリの分布およびフェノロジー
R2. 4. 11、12	日本雑草学会第59回大会	松尾光弘、樋口翔大、 河野礼紀	フルチアセットメチル乳剤処理後の温度がカロライナツユクサの生育に及ぼす影響
R2. 9	九州農業研究第83回発表会	河野礼紀、香月望、藤谷渉、 清田梨華、柿原千代文、 山本真梨子、近乗偉夫	麦生育初期の牛糞堆肥連年施用が麦および後作大豆に与える影響
R2. 9	九州農業研究第83回発表会	安藤広将、墨谷荘平、 平野貴弘、山本真梨子	大分県における飼料用米品種「みなちから」の特性
R2. 9	九州農業研究第83回発表会	山本真梨子、吉良知彦、 大窪恵美子	大分県における醤油用小麦品種「はるみずき」の特性
R2. 9	九州農業研究第83回発表会	山本真梨子、河野礼紀、 安藤広将、近乗偉夫、 平野貴弘、内田多香子、 吉良知彦、墨谷荘平、 柿原千代文	NDVIと葉色を用いた醤油用小麦品種「はるみずき」の簡易な収量予測法の検討

（4）研究成果発表会等

該当なし

5. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 6. 17～ R2. 6. 19	新任普及員研修	水田農業 グループ	5	地域農業振興課
R2. 7. 27	社員研修「スマート農業等の実現に向けた取り組みと課題」	大分市	20	NTCコンサルティング株式会社 大分支部
R2. 8. 31	社員研修「農業機械の現状と今後の方向性～昨今の研究成果より～」	大分市	20	NTCコンサルティング株式会社 大分支部
R2. 8. 11	令和2年度 第1回大分県スマート水田農業研究会	国東市	50	農地活用・集落営農課
R2. 8. 20	北部局スマート農業研修会	宇佐市	60	北部振興局
R2. 8. 26	スマート農業実証プロジェクト「スマート農業オリエンテーション」	竹田市、 豊後大野市	40	農地活用・集落営農課 (久住高原高、農業大学校生対象)
R2. 8. 27	スマート農業実証プロジェクト「スマート農業現地研修会」	竹田市	40	農地活用・集落営農課 (久住高原高、農業大学校生対象)
R2. 9. 1	スマート農業実証プロジェクト「スマート農業見学会」	竹田市	60	農地活用・集落営農課
R2. 9. 1	令和2年度 第2回大分県スマート水田農業研究会	竹田市	40	農地活用・集落営農課
R2. 9. 2	自動水門見学会	宇佐市	20	農地活用・集落営農課、北部振興局
R2. 9. 15	農業共済損害防止講習会	大分市	20	大分県農業共済組合
R2. 10. 26	作物課題解決研修①	水田農業 グループ	40	地域農業振興課
R2. 11. 28	雑草学会若手の会 2020年の会「現場での雑草研究」	web (youtube)	-	日本雑草学会
R2. 12. 7、 R2. 12. 14	スマート農業実証プロジェクト「自動操舵システムの原理説明・操作実習」	竹田市	40	農地活用・集落営農課 (大分県農業大学校生対象)
R2. 12. 8	萩西部土地改良区研修「畦畔管理、トビイロウンカ対策」	水田農業 グループ	10	萩西部土地改良区
R3. 1. 14	出前はやしセミナー	水田農業 グループ	13	農林水産研究指導センター
R3. 1. 26、 R3. 2. 18	スマート農業実証プロジェクト「これまでの講義の振り返り」	竹田市、 豊後大野市	40	農地活用・集落営農課 (久住高原高、農業大学校生対象)
R3. 2. 2	農業指導士認定研修	大分市	100	地域農業振興課
R3. 3. 1	令和2年度 第3回大分県スマート水田農業研究会	web	46	農地活用・集落営農課
R3. 3. 4	水田農業若手農業者研修「アグリノートの利活用」	宇佐市	10	北部振興局
R3. 3. 12	作物課題解決研修②	水田農業 グループ	40	地域農業振興課

(2) 受入研修

①長期研修者受入

該当なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者		
団体等職員	1	10
普及指導員		
学生		
児童・生徒		
海外からの視察者		
その他		
計	1	10

※大学

※小中高校

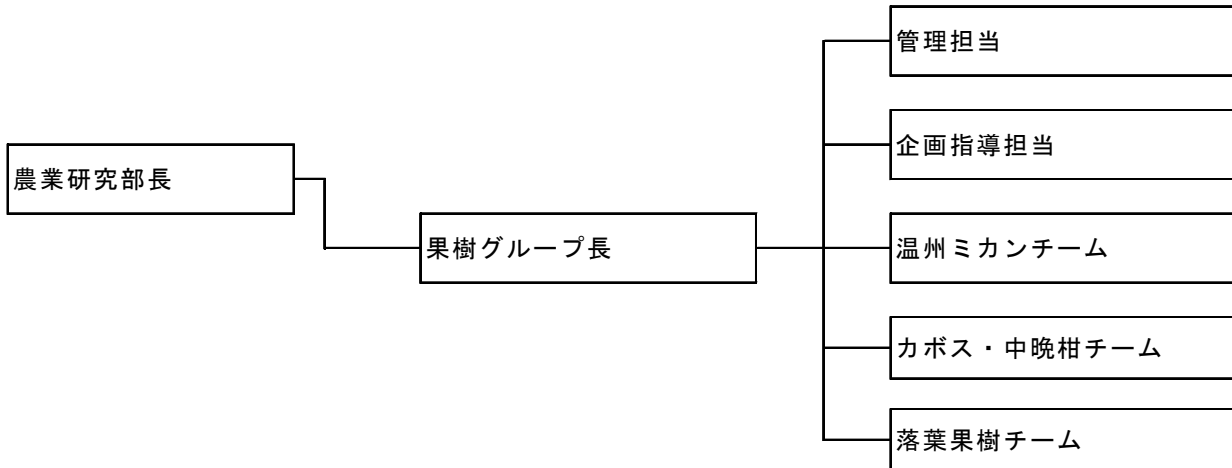
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
水稲乾田直播栽培法の普及	重点事項である除草対策を現地実証し、普及を図る。	現地2ヶ所で新たな除草体系の効果を確認。今後普及を推進する。

II-3 果樹グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職員		技師	労務 技師	業務 技師	農業 技術員	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1						1	
企画指導担当		3					3	広域普及指導員2
温州ミカンチーム		4		1			5	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
落葉果樹チーム		5	1		1	1	8	
計	1	17	1	2	1	1	23	

(3) 業務

- ①温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ②カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ③ナシ・ブドウ等の優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ④ハウスミカン、施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤カンキツ及び落葉果樹の病害虫に関する試験研究
- ⑥生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題
果樹グループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目				
※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ ハウスみかんの早期成園化及び高生産技術の確立 1) ハウスミカン栽培における適正水分管理技術と省力・高収益栽培技術の開発	温州ミカン チーム		H30～R2	県単
・ なしの早期成園化及び高生産技術の確立 1) ナシの作業性に優れた「改良流線型仕立」栽培法と側枝発生促進技術の開発	落葉果樹 チーム		R2～4	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ かんきつ品種の育成と栽培技術の確立 1) 県南地域に適した中晩柑の高品質生産技術の確立及びオリジナル品種の開発	かんきつ・中 晩柑チーム		R2～4	県単
・ かんきつ優良品種の選定と栽培技術の確立 1) 「開花期加温栽培」による「不知火」、「あすみ」の高糖度果実安定栽培技術の開発	温州ミカン チーム		R1～3	県単
2) 「おおいた早生」のリレー出荷を可能にする無加温栽培と樹上完熟栽培技術の開発	温州ミカン チーム		R1～3	県単
3) カンキツ系統適応性検定試験	かんきつ・中 晩柑チーム		R1～3	県単
・ なし極早生品種の育成と栽培技術の確立 1) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹 チーム		R1～3	県単
・ 特色あるワイン専用品種の育成及び栽培技術の確立 1) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹 チーム	三和酒類 (株)	R1～3	県単
・ 落葉果樹の優良品種の選定と栽培技術の確立 1) ブドウの高収量栽培、早期成園化技術と新品種の安定生産技術の確立	落葉果樹 チーム	土壌・環 境チーム	R2～4	県単
2) 水田転換に対応した新たな落葉果樹栽培技術の開発	落葉果樹 チーム		H30～R2	県単
3) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹 チーム		R1～3	県単
・ かぼすの周年安定出荷のための栽培及び貯蔵技術の確立 1) カボス新品種導入による周年出荷の安定	かんきつ・中 晩柑チーム		R1～3	県単
・ 果樹の病害虫防除体系の確立 1) 果樹の病害虫防除並びに植物生長調節剤に関する試験	果樹 グループ		R1～3	県単・国庫
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ ハウスみかんの省エネ及び高収益栽培技術の確立 1) ハウスミカン栽培における適正水分管理技術と省力・高収益栽培技術の開発	温州ミカン チーム		H30～2	県単
IV 地域資源の活用と環境対策等の技術開発				
・ 温暖化に適応可能な新たな果樹品目の探索と栽培技術の確立 1) カンキツ系統適応性検定試験	温州ミカン チーム		R1～3	県単
2) 研究分野				
II 基礎調査研究				
・ 農業情報の提供	落葉果樹 チーム		長期	県単
・ 優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の管理	落葉果樹 チーム		長期	県単
・ 地元ゆかりの動植物の保存	落葉果樹 チーム		長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和元年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報 CD版	R3. 2. 25	155	120 枚

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻（号）	掲載頁
釘宮伸明	「シャインマスカット」の食感改善技術	果実日本 (日園連)	75 巻 (11 号)	52-55
釘宮伸明	「シャインマスカット」の食感改善技術	果樹園芸 (全農愛媛県本部)	73 巻 (11 号)	52-55
松原公明	早生温州の樹上完熟栽培	農業技術体系果樹編 (農山漁村文化協会)	編集中	編集中

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 9. 18	第 83 回九州農業研究発表会 果樹部会	永松千枝	ナシ、ブドウ、キウイフルーツの湛水処理が生育に及ぼす影響
R2. 9. 18	第 83 回九州農業研究発表会 果樹部会	佐藤剛	ニホンナシ「豊里」の流線型仕立大苗育苗における配合土および施肥の検討
R2. 9. 18	第 83 回九州農業研究発表会 果樹部会	吉澤栄一	カンキツ「大分果研 4 号」の無加温栽培におけるかん水処理が果実品質及び収量に及ぼす影響
R2. 9. 18	第 83 回九州農業研究発表会 果樹部会	矢野拓	アロメトリーによるハウスミカン垣根仕立ての葉面積指数の推定
R3. 1. 26	九州沖縄農業試験研究推進会議 九州沖縄果樹研究会	釘宮伸明	濃緑色袋による成熟遅延を利用したブドウ「シャインマスカット」の簡易貯蔵技術
R3. 1. 26	九州沖縄農業試験研究推進会議 九州沖縄果樹研究会	五島遼太郎	カンキツ「大分果研 4 号」の果皮障害抑制対策

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度農林水産研究指導センター研究状況報告会	R2. 9. 2	大分県庁本館 8 階	1	35
令和2年度農林水産部普及活動・研究成果報告会	R3. 1. 19	大分県庁本館 4 階	1	20

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 5. 14	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	9	落葉果樹チーム
R2. 5. 19	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	5	落葉果樹チーム
R2. 5. 20	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	3	落葉果樹チーム
R2. 5. 22	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	2	落葉果樹チーム
R2. 5. 28	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	2	落葉果樹チーム
R2. 6. 9	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	4	落葉果樹チーム
R2. 6. 10	課題解決研修(果樹)	日田市	18	園芸振興課
R2. 6. 12	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	5	落葉果樹チーム
R2. 6. 13	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	4	落葉果樹チーム
R2. 6. 17	ハウスかん垣根仕立てにおける自走式防除機の利用に関する研修会	果樹G 温州ミカンチーム	35	果樹グループ
R2. 6. 18	中部地区かんパエ防除対策会議	J Aおおいた滝尾選果場	20	中部振興局
R2. 6. 23	大分市訪果害虫対策会議	J Aおおいた滝尾選果場	20	大分市
R2. 6. 24	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	2	落葉果樹チーム
R2. 7. 8	津久見市柑橘組合長会議	津久見市民会館	20	津久見市
R2. 7. 9	専門技術研修(基礎・常緑)	果樹G 温州ミカンチーム	8	温州ミカンチーム
R2. 7. 14	シャインマスカット若手生産者研修会	果樹G 落葉果樹チーム、宇佐市安心院	39	園芸活性化協議会
R2. 7. 17	大分県なし研究会若手研修会	果樹G 落葉果樹チーム	34	園芸活性化協議会
R2. 7. 29	臼杵市みかん園防除対策班会議	臼杵市役所	10	臼杵市
R2. 8. 21	県キウイ推進会議	東部振興局	14	JA おおいた
R2. 8. 27	専門技術研修(基礎・常緑)	果樹G 温州ミカンチーム	4	温州ミカンチーム
R2. 9. 16	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	9	落葉果樹チーム
R2. 9. 25	おおいたAFF女性初ワークみかんぶ研修	カボス・中晩柑チーム	25	地域農業振興課
R2. 10. 1	専門技術研修(基礎・常緑)	果樹G 温州ミカンチーム	8	温州ミカンチーム
R2. 10. 8	みかん園検査識別研修会	大分市(大分県庁)	15	新規就業・経営体支援課
R2. 10. 20	専門技術研修(基礎・落葉)	由布市庄内	10	落葉果樹チーム
R2. 10. 27	令和2年度露地みかん研修会	果樹G(国東)	20	大分県柑橘研究会
R2. 11. 9	課題解決研修(果樹)	大分市	18	新規就業・経営体支援課
R2. 11. 25	ハシ流線型仕立剪定研修会	宇佐市落葉果樹チーム	13	園芸活性化協議会
R2. 11. 26	専門技術研修(基礎・落葉)	中津市山国	10	農業公社やまくに
R2. 11. 27	若手生産者ハシ栽培技術研修会	日田市ナシ圃場	37	園芸活性化協議会
R2. 12. 1	シャインマスカット若手生産者研修会	宇佐市落葉果樹チーム	35	園芸活性化協議会
R2. 12. 8	専門技術研修(基礎・落葉)	果樹G 落葉果樹チーム	9	落葉果樹チーム
R2. 12. 18	津久見みかん塾視察研修会	カボス・中晩柑チーム	25	津久見市、中部振興局
R3. 12. 21	果樹病害虫防除暦検討会	J Aおおいた本店	40	園芸活性化協議会果樹部会
R3. 1. 28	シャインマスカット若手生産者役員会	宇佐市安心院	10	園芸活性化協議会
R3. 2. 17	かんパエ防除対策関係者会議	大分市(大分県土地改良会館)	25	地域農業振興課
R3. 2. 18	課題解決研修(果樹)	日出町	18	園芸振興課
R3. 2. 25	専門技術研修(基礎・常緑)	果樹Gカボス・中晩柑チーム	10	カボス・中晩柑チーム
R3. 2. 25	事業承継研修	日出町	20	地域農業振興課、新規就業・経営体支援課
R3. 3. 4	専門技術研修(基礎・常緑)	果樹G 温州ミカンチーム	8	温州ミカンチーム

（2）受入研修

① 長期研修者受入

氏名	所属	研修内容	期間
飯田尚暉	大分県農業協同組合東部事業部杵築柑橘選果場	柑橘栽培に関する基本的な知識・技術習得	R2. 4. 20～R3. 3. 31

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	49	144
団体職員	39	61
普及指導員	42	209
学生	3	8
児童・生徒	0	0
海外からの視察者	0	0
その他	4	32

※大学

※小中高校

（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
ハウスミカン栽培における適正水分管理技術と省力・高収益栽培技術の開発	ハウスミカンの改植後の未収益期間の短縮と単収向上を図るため、垣根仕立ての栽培技術の普及を図る	県下で導入面積（44a）。内2棟（杵築市5a、津久見市8a）がR2年初収穫。両ハウスともR2年産の目標単収4t/10aをクリア。また、R3年産加温面積は33a（杵築市3棟25a、津久見市1棟8a）。全棟、着花量も十分確保でき加温継続中。
ブドウの高収量栽培、早期成園化技術と新品種の安定生産技術の確立	大量貯蔵での貯蔵リスクを低減させることで、貯蔵量の拡大を目指す	着色袋の活用による抑制栽培技術の実証では、新果実袋の導入数（R2購入数）が29,440袋（約1ha分）になった。また、貯蔵果実の管理指導と貯蔵ロス発生原因の明確し、貯蔵ロス（販売不可果実）の発生を5%に抑えた。

Ⅱ－4 花きグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務 技師	業務 技師	事務 補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長	管理担当	1	1				1	1	
企画指導担当	企画指導担当		1				1	2	
花きチーム	花きチーム		7	2		1		10	
	計	1	9	2	0	1	1	14	

(3) 業務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②バイオテクノロジーを活用した品種・農業技術の開発
- ③花きの研究成果の現地普及
- ④優良種苗の供給
- ⑤花き指導者、生産者に対する研修および現地指導

2. 試験研究課題

花きグループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ 高収益栽培技術の開発 1) 芽摘みの省力化によるキクの効率的生産体制の確立	花きチーム	イノテオ アグリ (株)他	R1~3	国庫・県単
・ オリジナル品目の開発 1) 水田畑地化に対応したホオズギ栽培体系の確立	花きチーム		R2~4	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ 難防除病害虫防除技術 1) 花き類の難防除病害防除技術の構築	花きチーム		H30~R2	県単
・ 新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 1) マーケットニーズに対応した高収益生産技術の確立と新たな花き品目の探索	花きチーム		H30~R2	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ 統合環境制御技術の開発とマニュアル化 1) スイートピーの年内収量向上対策と省力化品種の育成	花きチーム		R1~3	県単
・ 地域特性に即した品種選定と栽培技術確立 1) トルコギキョウ夏秋産地拡大のための栽培技術の確立	花きチーム		R2~4	
・ 新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 1) 県育成品種識別技術の確立と花きオリジナル品種の育成（バイオ）	花きチーム		R2~4	県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発				
2) 研究分野				
I 実用化研究				
II 基礎調査研究				
・ 戦略品目や推進品目の種苗管理供給及び系統選抜 1) イチゴ茎頂培養によるウイルスフリー苗の養成 2) 優良種苗の供給	花きチーム 花きチーム		長期 長期	県単 県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和元年度花きグループ試験成績書	R2. 4. 1	135	60

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

該当なし

(3) 研究会、学会等での発表

該当なし

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度農林水産研究指導センター研究状況報告会	R2. 9. 2	県庁	1	35
九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会花き成績設計検討会	R3. 2. 3 ~2. 12	オンライン開催	3	59

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 4. 17	スイートピー研修会	花きグループ	6	豊肥振興局
R2. 6. 24	トルコギキョウ栽培研修会	花きグループ	5	久住高原農業高校
R2. 7. 29～31	専門技術研修	花きグループ	3	地域農業振興課、JA おおいた
R2. 8. 6	農林水産部事務職員視察研修	花きグループ	8	農林水産企画課
R2. 9. 30	スイートピー技術指導	花きグループ	2	佐伯豊南高校
R2. 10. 21	別府市における温泉熱利用研究	花きグループ	20	鶴見丘高校
R2. 10. 23	温泉熱利用研究	花きグループ	86	大分中学校
R2. 11. 12	温泉熱利用研修	花きグループ	12	別府大学国際経営学部
R2. 11. 17	認定農業者花き研修	花きグループ	23	指宿市
R2. 11. 18	トルコギキョウ栽培研修会	花きグループ	5	久住高原農業高校
R2. 11. 18	花き試験研究研修	花きグループ	5	杵築市議会
R3. 1. 7	温泉熱利用研究	花きグループ	2	新産業振興室
R3. 1. 20～22	専門技術研修	花きグループ	3	地域農業振興課、JA おおいた
R3. 1. 28	花きコース校外研修	花きグループ	10	県立農業大学校

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	2	29
団体等職員	2	10
普及指導員	1	6
学生	3	47
児童・生徒	1	86
海外からの視察者	0	0
一般来場者	210	1,020
その他	2	7
計	221	1,205

※大学

※小中高校

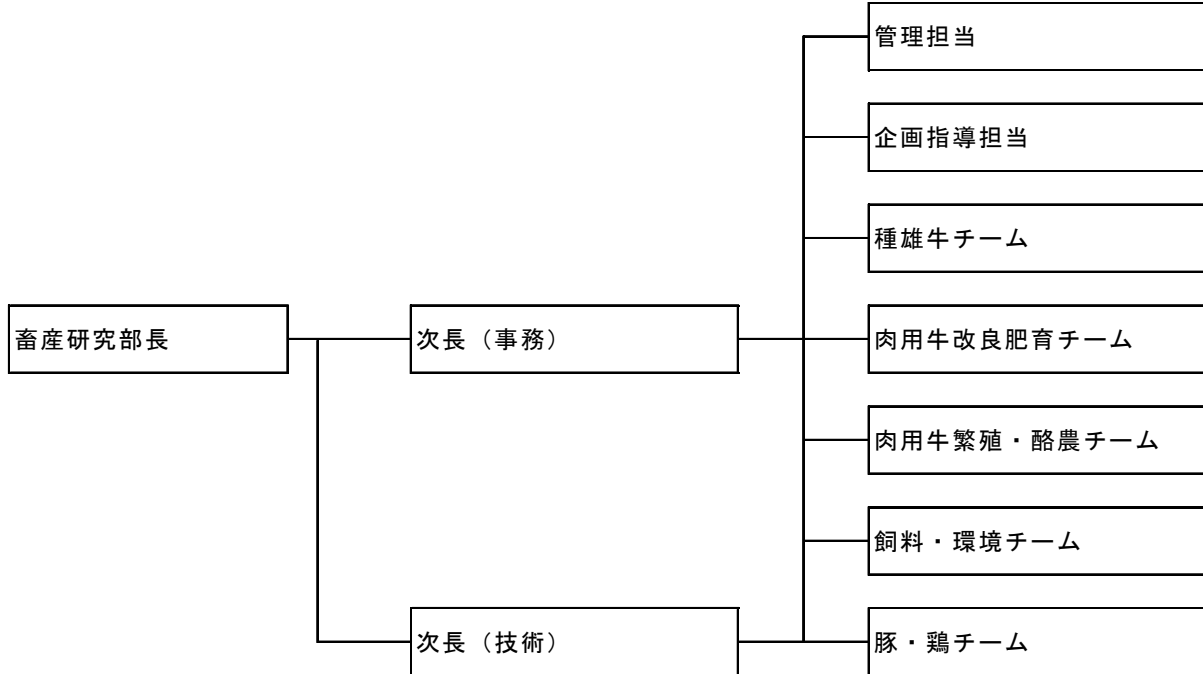
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
スイートピーの優良系統の現地普及	花きグループで育成した優良系統を普及拡大し、農家所得の向上を図る。	県内主要2産地で優良系統を試作として5系統導入した。

II-5 畜産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	農業技術員	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部	長		1					1	
次	長	1	1					2	
管	理	3						3	
企	画		4					4	広域普及指導員2名
種	雄		2	1	2	1		6	
肉	用		4	3		1		8	
肉	用		5	6	1	2		14	
飼	料		4	2		1		7	
豚	・		7	2	3	1		13	
計		4	28	14	6	6	0	58	

(3) 業務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚の育種、飼養技術並びに精液供給
- ⑥家きんの育種並びに飼養技術

2. 試験研究課題

畜産研究部（1／2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ 肉用牛・酪農の生産性向上と粗飼料基盤確立のための技術開発				
1) 和牛肥育期間の大幅な短縮技術の開発	肉用牛繁殖・酪農	農研機構・関係各県・大学等	H28～R2	国庫
2) 県産飼料の利用率を高めた肥育体系の開発	肉用牛繁殖・酪農	大分家保	R1～R2	県単
3) 周年親子放牧に適した牧草種の選定及び冬季飼料資源の開発	飼料・環境	農研機構・関係各県	H28～R2	国庫
・ ICTを活用したワークライフバランスを実現する技術の開発				
1) 乳用牛における分娩間隔の短縮に向けた発情検知システムの開発	肉用牛繁殖・酪農	農研機構・産科技・リモート	H30～R2	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ 優秀種豚造成のための豚凍結精液等の技術の開発				
1) LED光線管理による効率的豚人工授精法の確立	豚・鶏	広島大学	R1～R3	県単
2) 性別別精液の普及に向けた精子運動性及び受精能評価指標の確立	豚・鶏、肉用牛繁殖・酪農	広島大学	R2～R5	県単
・ 高付加価値地鶏の作出				
1) 商品性の高い「おおいた冠地どり」を支える増体向上技術の開発	豚・鶏		H30～R2	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ 牛の受胎率向上技術の開発				
1) 生産者の所得向上を目指した雌雄産み分け技術の確立	豚・鶏、肉用牛繁殖・酪農	広島大学	H30～R3	県単
IV 地域資源の活用と環境対策等の技術開発				
・ 低コスト経営のための未利用資源を活用した飼料開発				
1) 未利用「麦焼酎粕ケーキ」混合物の飼料化技術の開発	飼料・環境	大分家保	H30～R2	県単
2) 黒麹菌給与による家畜の生産性改善技術の確立	飼料・環境、肉用牛繁殖・酪農、豚・鶏		R1～R2	県単
・ 未利用資源の活用による豚ブランド力の強化				
1) 未利用資源（モヤシサイレージ）を利用した豚の低コスト肥育技術の確立	豚・鶏		R1～R2	県単

2. 試験研究課題

畜産研究部（2/2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
2) 研究分野				
II 基礎調査研究				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 優秀種雄牛の造成 <ul style="list-style-type: none"> 1) 種雄牛検定 <ul style="list-style-type: none"> (1) 直接法 (2) 現場後代法 2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証 	肉用牛改良・肥育 肉用牛改良・肥育 肉用牛改良・肥育	家畜改良センター、関係各県	長期 長期 長期	県単 県単 県単
<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧草、飼料作物の優良品種・系統の選定 <ul style="list-style-type: none"> 1) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験 <ul style="list-style-type: none"> (1) とうもろこし (2) イタリアンライグラス (3) ソルガム (4) オーチャードグラス (5) ペレニアルライグラス 	飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境	九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県	長期 長期 長期 長期 長期	県単 県単 県単 県単 県単
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質豚生産のための種豚改良 L・W・Dの系統維持・増殖 <ul style="list-style-type: none"> 1) 原種豚の改良維持及び増殖 <ul style="list-style-type: none"> (1) ランドレース種の系統維持及び増殖 (2) 大ヨークシャー種の改良増殖 (3) デュロック種の能力維持 	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏		長期 長期 長期	県単 県単 県単
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原種禽の系統維持及び増殖 <ul style="list-style-type: none"> 1) 原種禽の系統維持及び増殖 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「豊のしゃも」原種鶏 (2) 「おおいた冠地どり」原種鶏 (3) 「おおいた烏骨鶏」原種鶏 	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏	熊本農研、宮崎畜試	長期 長期 長期	県単 県単 県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
大分県種雄牛名簿・肉用牛現場後代検定成績	R2.6.1	1	2,000

畜産研究部監修

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

該当なし

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 9. 2	第1回 農林水産研究指導センター研究状況報告会	仁田坂俊輔	LED光線管理による効率的豚人工授精法の確立
R2. 9. 28-10. 5 (公開期間)	第83回 九州農業研究発表会	鳥羽菜摘・藤田和男	低標高地における周年放牧に適した牧草種の選定 (ポスター Web 発表)
R2. 11. 13	令和2年度 大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会	村上敦也・児玉千尋・渡邊直人・佐藤亘・堀浩司	牛の分娩間隔短縮に向けた膈内留置型発情検知システムの開発
		鳥羽菜摘・藤田和男	周年放牧適草種を用いた必要放牧面積の検討
		後藤良恵、阿南加治男、林佑亮、志村英明	商品性の高い「おおいた冠地どり」の生産を支える技術の開発

（4）研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度農林水産研究指導センター研究状況報告会 ※再掲：（3）研究会、学会頭での発表	R2. 9. 2	県庁舎本館	1	35
令和2年度 大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会 ※再掲：（3）研究会、学会頭での発表	R2. 11. 13	県庁舎新館	3	100

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会等の開催

ア 講習会、研修会等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 3. 16	杵築畜産研究会研修会	杵築市内	21	杵築畜産研究会

イ 畜産共進会

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 7. 21、22	東部地域畜産共進会（巡回審査）	杵築市内	25	杵築市畜産品評会
R2. 7. 30	玖珠九重農協主催畜産品評会	豊後玖珠市場	50	玖珠九重農協
R2. 7. 30	国東市畜産共進会（巡回審査）	国東市内	10	国東市畜産組合
R2. 7. 31	飯田地区畜産品評会	九重町飯田	50	九重町飯田農協他
R2. 8. 4	竹田市畜産共進会直入予選会	直入畜産審査棟	40	竹田市畜産共進会
R2. 8. 5	竹田市畜産共進会久住予選会	久住家畜総合センター	40	竹田市畜産共進会
R2. 8. 7	竹田市畜産共進会竹田予選会	豊後豊肥市場	40	竹田市畜産共進会
R2. 10. 2、3	大分県畜産共進会（肉畜の部）	大分県畜産公社	50	大分県畜産協会他

ウ 精液譲渡

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 4. 3	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 4. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 4. 14	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R2. 4. 23	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R2. 4. 24	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 5. 8	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R2. 5. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 5. 15	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 5. 18	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 6. 3	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 6. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 6. 11	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R2. 6. 23	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R2. 6. 24	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 7. 7	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R2. 7. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 7. 16	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 7. 17	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 8. 7	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 8. 12	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R2. 8. 24	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R2. 8. 26	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 9. 7	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R2. 9. 11	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 9. 14	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 9. 17	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 10. 2	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 10. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 10. 12	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R2. 10. 23	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R2. 10. 26	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 11. 6	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 11. 13	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 11. 16	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R2. 11. 17	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 12. 4	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R2. 12. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R2. 12. 24	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R2. 12. 25	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 1. 8	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 1. 15	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 1. 18	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 1. 19	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 2. 2	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 2. 5	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 2. 10	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R3. 2. 22	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R3. 2. 24	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 3. 5	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 3. 15	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 3. 16	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 3. 17	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
研修生2名	県内	大分県立農業大学校 就農準備研修畜産コース	R2. 4. 10～R3. 3. 10
受講者15名	県内	家畜人工授精（牛）講習会	R2. 11. 2～R3. 12. 2

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	3	31
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	4	20
児童・生徒	1	1
海外からの視察者	0	0
その他	2	4
計	10	56

※大学

※小中高校

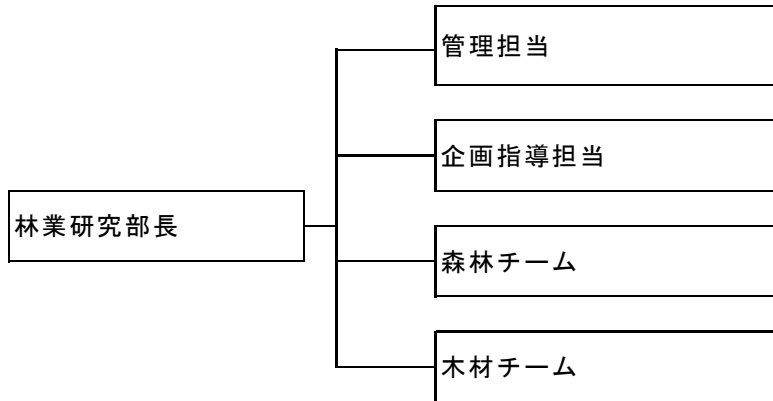
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
高泌乳牛のと場由来卵子と雌判別精液を用いた高泌乳後継牛生産プロジェクト	地域の乳用後継牛確保と牛群能力の向上のため、性判別精液及び高能力廃用牛の卵子を用いた受精卵を現地に供給する体制を構築する。	大分県酪農業協同組合の雑誌で体外受精卵の活用についての広報を行ったところ、予想以上の人気となり、体外受精卵の作成個数の増加（100個→459個）を図った。現在移植データの収集や地域における活用体制を構築中。
商品性の高い「おおいた冠地どり」を支える増体向上技術の開発	飼料給与体系の改善により「おおいた冠地どり」の育成率と出荷体重の向上を図る。	現地指導や講習会の開催により、育成率は97.0%（目標95%）、出荷体重は3.3kg（目標3.2kg）へ向上。

Ⅱ－6 林業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務 技師	業務 技師	事務 補佐	計	備考
		事務	技術						
部 管	長 担	2	1					1	
企 画	担 当		3					3	(兼)林務管理課 広域普及指導員1名
森 林	チ ー		5			1		6	
木 材	チ ー		6					6	(兼)産業科学技術センター 製品開発支援担当主幹研究員1名
	計	2	15	0	0	1	0	18	

(3) 業務

- ①育種・育林の技術開発に関する試験研究
- ②環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③県産材の需要拡大に関する試験研究

2. 試験研究課題

林業研究部

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
1) 基本施策				
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ 造林樹種における優良品種の選抜 1) スギ推奨品種さし木苗の増産に関する研究II	森林チーム	なし	H30～R2	県単
・ 低コスト育林技術の開発・実証 1) 疎植造林による育林施業体系の開発	森林チーム	なし	R2～R6	県単
・ スギ大径材の効率的な製材・乾燥技術の開発 1) 非住宅分野の木造化に対応する大断面製材品の強度性能評価	木材チーム	なし	H30～R2	県単
2) 寸法安定性の高い高品質乾燥材生産技術の開発	木材チーム	なし	H30～R2	県単
3) 県産スギ大径材の有効利用技術の開発	木材チーム	なし	R1～R3	県単
4) 長大スパンに対応する接着重ね材の開発 -大径材等の新たな用途拡大-	木材チーム	なし	R2～R4	県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発				
・ シカ捕獲対策の推進 1) 再造林に欠かせないシカ害防除技術の確立	森林チーム	なし	H30～R2	県単
2) 研究分野				
I 実用化研究				
II 基礎調査研究				
・ スギ雄花着生状況調査(花粉飛散量予測と雄花生産量の把握) 1) スギ花粉発生源地域推定事業	森林チーム	なし	R2	受託 [全林協]

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和元年度林業研究部年報（第62号）	R2. 9. 11	68	200
林研だより（第82号）	R3. 1. 29	8	HP
パンフレット「スギさし木苗増産に向けた採穂・育苗方法（II） -ミニ穂活用による採穂量調査・育苗試験-」	R3. 3. 30	4	HP

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻（号）	掲載頁
山本幸雄	九州ブロック情報 5 大分県農林水産研究指導センター林業研究部 - 一般流通製材を用いた大断面柱材の開発 -	全国林業試験研究機 関協議会誌	第54号 (2020)	53-54
山本幸雄	一般流通製材を用いた大断面柱材の開発	公立林業試験研究機 関研究成果集	No. 18 令和2年度 (2020)	55-56
佐藤太郎 河津温子 姫野早和	春先の床替えに適したヒノキ秋ざし条件の検討	九州森林学会九州森 林研究	第74号 令和3年3月 (2021)	73-75
山本幸雄 末光良一 前原礼明	「人工乾燥材の強度等品質を確保するための適 正乾燥条件の検討」報告書 (令和元年度 合板・製材・集成材国際競争力強 化対策のうち木材製品の消費拡大対策のうち CLT 建築実証支援事業)	一般社団法人全国 木材組合連合会	令和3年2月	-

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 10. 26	第76回九州森林学会大会	佐藤太郎 河津温子 姫野早和	春先の床替えに適したヒノキ秋ざし条件の検討

（4）研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度 農林水産研究指導センター 林業研究部 研究発表会	R3. 2. 18	オンライン	3	53

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 5. 18	おおいた林業アカデミー 「木材の利用について」	大分県林業研修所	9	(公財)森林ネットおおいた
R2. 6. 2	おおいた林業アカデミー 「林業研究部の概要及び研究について」	林業研究部	9	(公財)森林ネットおおいた
R2. 6. 2、9、16	大分県立農業大学校講義	大分県立農業大学校	51	大分県立農業大学校
R2. 6. 10	林業普及技術等習得研修（林業一般）	大分県庁舎	7	大分県
R2. 8. 6	林業全般基礎研修Ⅰ（前期）	大分県庁舎	9	大分県
R2. 8. 18	林業全般基礎研修Ⅱ（前期）	林業研究部	14	大分県
R2. 8. 24	大分県インターンシップ研修（林業）	林業研究部	5	大分県
R2. 8. 26	緑青会研修会 「林業研究部における取組について」	林業研究部	4	大分県樹苗生産農業協同組合
R2. 8. 28	試験研究機関における実践研修	林業研究部	5	大分県
R2. 9. 16	SSH指定校・大分県立日田高等学校「日田の林業に関する探求活動」	林業研究部	31	大分県立日田高等学校
R2. 9. 18	西部支部総会研修 「鳥獣対策及び早生樹について」	ホテルソシア	15	大分県樹苗生産農業協同組合
R2. 9. 25	おおいた木造塾研修 「知っておきたい木材の基礎知識」	林業研究部	16	(公社)大分県建築士会
R2. 9. 29	林業種苗生産事業者講習会	大分県庁舎	23	大分県
R2. 10. 14	日田林工高等学校インターンシップ	林業研究部	2	大分県立日田林工高等学校
R2. 10. 19	フォレストワーカー集合研修(3年目) 「木材の特性について」	大分県林業研修所	12	(公財)森林ネットおおいた
R2. 10. 28	苗木生産初心者研修	大分県林業研修所	9	(公財)森林ネットおおいた
R3. 1. 21	「長大スパンに対応する接着重ね材の開発」における強度試験の公開について	林業研究部	20	公共建築物等における県産材利用促進に係る接着重ね材研究会
R3. 2. 2	林業普及指導員研修	林業研究部	26	大分県

（2）受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	30	35
団体等職員	91	270
普及指導員	8	46
学生	1	5
児童・生徒	2	53
海外からの視察者	0	0
その他	47	130
計	179	539

※大学

※小中高校

③ 企業支援

区分	件数	金額（円）
依頼試験	29	1,620,401
機械貸付	396	316,240
技術相談	156	-
企業訪問	54	-

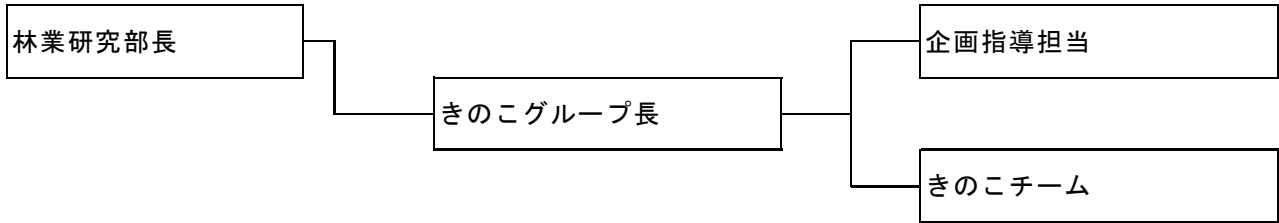
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
家具産業ブランディングと県産材利用拡大のための技術・技能の向上支援研究	家具産業の技術向上及び、認定職業訓練の実施を支援することによる産地ブランドイメージの向上	日田家具工業会が実施する県認定職業訓練開催を指導。令和2年9月及び11月に家具製作訓練（2級いす張り作業）実施を支援（延14名受講）。また令和3年度前期技能検定の県内開催準備を支援した。

II-7 きのかグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	
企画指導担当			3					3	広域普及指導員2名
きのかチーム			5					5	
計		0	9	0	0	0	0	9	

(3) 業務

- ①原木シイタケ栽培技術の改善・開発
- ②菌床栽培技術の改善・開発
- ③シイタケの機能性に関する研究
- ④きのか類の品種改良・開発
- ⑤有用きのか類の遺伝子収集及び保存
- ⑥研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑦病虫害等の防除技術の普及
- ⑧新規参入者の研修・技術指導
- ⑨栽培技術情報の収集・管理と情報発信

2. 試験研究課題
きのこグループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ しいたけ栽培における省エネルギー及び施設利用技術の開発 1) LEDを活用した菌床シイタケ栽培技術の改善	きのこ	女子栄養 大学	H30～R2	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ きのこ類のブランド化に向けた品種開発 1) 大分県の気象条件に適合した乾シイタケ品種の育成	きのこ	森林総合 研究所	R1～4	県単
2) マーカー利用選抜による気候変動に適応した菌床栽培用シイタケ品種の開発	きのこ		H28～R2	国庫
・ しいたけの食味や機能性等の食品としての特性評価 1) 乾シイタケ機能性成分増加技術の確立	きのこ	女子栄養 大学	R1～3	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ しいたけの生産力強化に向けた技術開発 1) 原木シイタケの単収向上を目指した2年目発生操作技術の開発	きのこ		H29～R2	県単
2) 温暖化に対応した乾シイタケ栽培技術の開発	きのこ		H30～R3	県単
3) 乾シイタケ原木栽培の早期ほだ化技術の開発	きのこ		R2～4	県単
2) 研究分野				
I 実用化研究				
II 基礎調査研究				
・ 野生きのこ類の遺伝子収集と保存	きのこ		H1～	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
林業研究部きのこグループ業務年報（第31号）	R3.2	42	250
情報誌「くらんぷ」第51号	R3.2	7	1,500

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
宮本 亮平、十時 しおり	乾シイタケ原木栽培における2才木への発生操作の効果について	九州森林研究	74	87-89
山下 和久、有馬 忍、石井 秀之、 彌田 涼子	菌床シイタケ栽培における夏期発生温度の検討	農耕と園芸	3月号	12-15
小林 卓也、小黒 芳生、秋葉 満 輝、滝 久智、北 島 博、石原 宏 基	Mushroom yield of cultivated shiitake (<i>Lentinula edodes</i>) and fungal communities in logs	Journal of Forest Research	2020.4	269-275

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 10. 26	第76回九州森林学会大会	宮本亮平	乾シイタケ原木栽培における2才木への発生操作の効果について
R3. 3. 19	第71回日本木材学会	宮澤紀子、飯田千恵美、有馬忍、江口文陽	原木の樹種が乾シイタケの嗜好特性に及ぼす影響

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度農林水産研究指導センター研究状況報告会	R2. 9. 2	県庁	1	35

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 6. 16	試験研究機関における実践研修(1回)	きのこグループ、大分市	3	林務管理課
R2. 7. 16	試験研究機関における実践研修(2回)	きのこグループ	3	林務管理課
R2. 7. 17	試験研究機関における実践研修(2回)	きのこグループ	3	林務管理課
R2. 7. 30	試験研究機関における実践研修(3回)	きのこグループ、大分市	2	林務管理課
R2. 8. 28	試験研究機関における実践研修(4回)	きのこグループ	3	林務管理課
R2. 11. 12	試験研究機関における実践研修(5回)	佐伯市	3	林務管理課
R2. 12. 8	試験研究機関における実践研修(6回)	きのこグループ	3	林務管理課
R3. 2. 9	試験研究機関における実践研修(7回)	佐伯市	2	林務管理課

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 10. 22	林業全般基礎研修(Ⅰ)後期研修	きのこグループ	14	林務管理課
R2. 10. 28	林業全般基礎研修(Ⅱ)後期研修	きのこグループ	12	林務管理課
R2. 12. 24	広域普及指導員プロジェクト研修(特用林産)	きのこグループ(リモート)	5	きのこグループ

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第11期)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 7. 21	大分しいたけ源兵衛塾開講式・第1回研修会	きのこグループ	27	大分県椎茸振興協議会
R2. 9. 17	大分しいたけ源兵衛塾第2回研修会	きのこグループ、佐伯市	22	大分県椎茸振興協議会
R2. 10. 27	大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会	きのこグループ	20	大分県椎茸振興協議会
R3. 2. 10	大分しいたけ源兵衛塾第4回研修会	きのこグループ	18	大分県椎茸振興協議会

エ. 新規参入者研修(栽培体験コースを含む)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 9. 15	第1回大分西部原木しいたけ栽培基礎研修会	日田市	9	大分西部流域林業活性化センター
R2. 10. 4	原木しいたけ新規参入者研修(第1回)	きのこグループ	28	林産振興室
R2. 11. 9	しいたけ生産スタートアップ支援研修	きのこグループ	5	森林ネットおおいた
R2. 11. 20	シイタケ版ファーマーズスクール第1回合同研修会	きのこグループ、豊後大野市	9	林産振興室
R3. 1. 26	シイタケ版ファーマーズスクール第2回合同研修会	宇佐市	13	林産振興室
R3. 2. 14	原木しいたけ新規参入者研修(第2回)	きのこグループ	25	林産振興室
R3. 2. 25	第2回大分西部原木しいたけ栽培基礎研修会	日田市	16	大分西部流域林業活性化センター
R3. 3. 7	原木しいたけ新規参入者研修(第3回)	きのこグループ	21	林産振興室
R3. 3. 27	しいたけ生産スタートアップ支援研修	大分市	5	森林ネットおおいた

オ. きのこ生産研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 6. 23	玖珠九重農協生椎茸部会活着伸長調査・学習会	玖珠町、九重町	16	玖珠九重農協生椎茸部会
R2. 8. 3	「しいたけ原基塾」第1回研修会	竹田市	21	豊肥振興局
R2. 8. 19	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	杵築市、宇佐市	6	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 24	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	大分市	6	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 25	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	日田市	3	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 27	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	佐伯市	5	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 27	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	豊後大野市	4	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 28	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会地区説明会	竹田市	7	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R2. 8. 25	国東地区連合会入れ木コンクール・活着調査	国東市	17	大分県椎茸農業協同組合国東町連合会
R2. 10. 12	「しいたけ原基塾」第2回研修会	竹田市	14	豊肥振興局
R3. 1. 20	原木しいたけ栽培機械化研修会	宇佐市	19	北部・東部地区森林・林業活性化協議会
R3. 2. 25	原木供給体制整備研修会	由布市	15	林産振興室
R3. 3. 10	全国品評会に向けた品質向上研修会	佐伯市	33	佐伯市椎茸生産組合連合協議会

カ. 人材育成研修等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 8. 25	大分県インターンシップ研修(林業)	きのこグループ	7	林務管理課
R2. 9. 9	農業大学校講義 作目栽培II(椎茸)	きのこグループ	14	農業大学校
R2. 11. 4	別府大学「地域創生プロジェクト」講義	別府市(別府大学)	30	別府大学

キ．関係団体総会・会議

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 6. 11	第1回椎茸技術者会議	きのこグループ	15	きのこグループ
R2. 8. 3	第1回原木しいたけ栽培技術検討会	国東市	8	東部振興局
R2. 12. 21	第2回原木しいたけ栽培技術検討会	国東市	6	東部振興局

ク．品評会関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R2. 4. 20	令和2年度豊後高田市乾椎茸品評会審査会	豊後高田市	8	豊後高田市椎茸生産組合
R2. 4. 20	第9回豊後大野市乾椎茸品評会審査会	豊後大野市	17	豊後大野市椎茸振興会
R2. 4. 22	第16回佐伯市乾椎茸品評会審査会	豊後大野市	16	佐伯市椎茸生産組合連絡協議会
R2. 5. 11	第63回大分県乾椎茸品評会審査会(箱物)	大分市	11	大分県椎茸農業協同組合
R2. 5. 18	第63回大分県乾椎茸品評会審査会(袋物)	大分市	10	大分県椎茸農業協同組合
R2. 5. 19	第63回大分県乾椎茸品評会審査会(袋物)	大分市	10	大分県椎茸農業協同組合
R2. 11. 17	第32回大分県生椎茸品評会審査会	大分市	15	大分県椎茸振興協議会

ケ．一般消費者関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 2. 26	新田小学校しいたけ教室	豊後大野市 (新田小学校)	8	豊肥振興局

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

対象者	研修内容	期間
生産者	菌床製造技術及び菌床栽培技術	R2. 8. 17～R3. 3. 31
生産者	菌床製造技術及び菌床栽培技術	R2. 8. 17～R3. 3. 31
生産者	担子菌類の分離、培養、保存方法	R2. 8. 17～R3. 3. 31

② 生産者、団体職員、普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	26	384
団体等職員		
普及指導員	11	53
学生	3	51
児童・生徒	1	8
海外からの視察者		
その他		
計	41	496

※大学

※小中高校

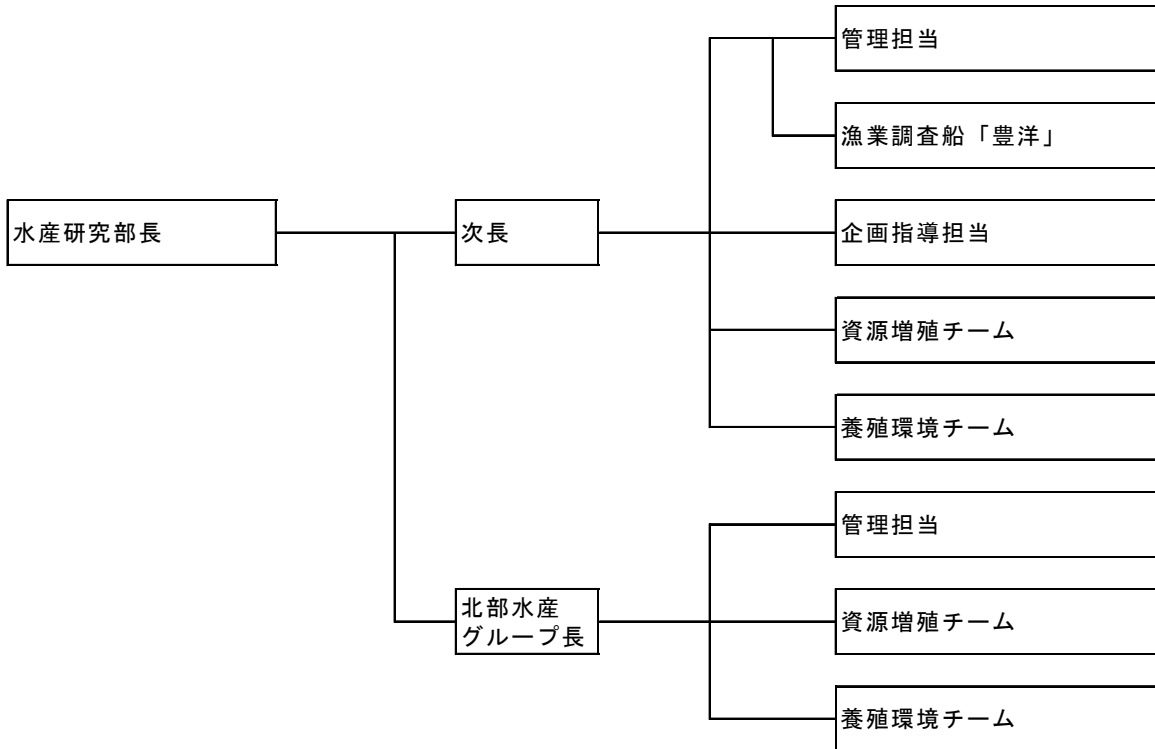
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
乾シイタケ原木栽培の単収向上技術の普及	単収向上に向けた1年越し発生技術及び平地伏せ込み管理技術の普及定着	<ul style="list-style-type: none"> ・1年越しの研究成果を取りまとめ、PR版を作成し、各種研修会で情報提供及び実習を行った。 ・1年越し及び平地伏せ込み管理実施状況調査を各6箇所を実施し、1年越し作業・平地伏せ込み管理指針を作成した。

Ⅱ－8 水産研究部（北部水産グループ含む）

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和2年4月1日現在

組織		職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
			事務	技術						
水産研究部	上浦	部長		1					1	海事職員7名
		次長	1						1	
		管理担当	2						2	
		漁業調査船「豊洋」		7					7	
		企画指導担当		2					2	
		資源増殖チーム		7					7	
	養殖環境チーム		8					8		
	北部水産グループ	グループ長		1					1	
		管理担当	1						1	
		資源増殖チーム		5					5	
		養殖環境チーム		6				6		
計			4	37	0	0	0	0	41	

(3) 業務

- ① 漁業の調査研究に関すること
- ② 漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③ 水産動植物の増養殖に関すること
- ④ 漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤ 水産動物の防疫等指導に関すること
- ⑥ 水産物の利用加工等指導に関すること
- ⑦ 漁場環境保全・赤潮防止技術に関すること
- ⑧ その他水産業の技術指導に関すること

2. 試験研究課題(1/3)

水産研究部所管分(1/1)

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I中課題・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分: 1)、(1)				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ 養殖生産の低コスト化・成長制御 1) 特定波長光照射による養殖対象種の成長等に関する予備試験	養殖環境		R2	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発				
・ 養殖生産物の品質改善 1) 高品質かぼす養殖魚創出事業	養殖環境	高知大学 別府大学 大分大学	H30~32	県単
・ プリ類養殖業成長産業化促進事業(人工種苗生産技術の向上)	資源増殖		H30~R2	県単
・ 養殖魚の抗病性強化法・新規ワクチン開発 1) 魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	養殖環境	九州大学 愛媛大学	R2~R4	県単
2) 安心・安全で環境に優しい養殖推進事業(クドア)	養殖環境		R2~	県単
3) 資源造成型栽培漁業推進事業(種苗検査)	養殖環境		R2~	県単
・ 養殖魚の寄生虫防除法開発 1) 魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発(はだむし対策)	養殖環境	海洋大	H19~	県単
・ 鮮度保持技術開発 1) 生鮮用水産物の高品質化技術開発事業(酸素充填)	養殖環境	(国研)水産研究・ 教育機構	R1~2	諸経費 委託
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ 資源に関する基礎調査(モニタリング調査) 1) 資源評価関係調査 2) 資源・漁獲情報ネットワークの構築	資源増殖	(国研)水産研究・ 教育機構	H12~	諸経費 委託
・ 豊予海峡周辺海域におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究	資源増殖	(国研)水産研究・ 教育機構	H30~R2	諸経費 委託
・ タチウオ資源回復推進に関する研究 1) タチウオ資源回復に向けた受精卵放流および種苗生産技術の開発	資源増殖	(国研)水産研究・ 教育機構	H26~ H30~R2	県単 諸経費 委託
IV 地域資源の活用と環境対策等の技術開発				
・ 磯焼け対策に関する技術開発(モニタリング調査)	資源増殖		H16~	県単
・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発 1) 漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 (1) 赤潮防除・被害軽減手法の開発	養殖環境	(国研)水産研究・ 教育機構	H30~34	諸経費 委託
2) ICTの活用と農水連携による赤潮対策技術の開発	養殖環境		H30~32	県単
3) 漁場環境保全推進事業(赤潮・貝毒発生監視)	養殖環境			県単
4) 養殖マグロ成長産業化推進事業	養殖環境		R1~R3	県単
2) 研究分野				
I 実用化研究				
・ 漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 1) 有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発(赤潮モニタリング)	養殖環境	(国研)水産研究・ 教育機構	H30~34	諸経費 委託
・ 水産加工品等高度利用化指導(指導事業)	養殖環境		S61~	県単
II 基礎調査研究				
・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査	資源増殖		H26~	県単
・ 資源環境に関するデータの収集、情報の提供(情報提供事業)	資源増殖	(国研)水産研究・ 教育機構	長期	県単 委託
・ 天然アユ等のモニタリング 1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ等)	資源増殖		R2~	県単
・ 持続的養殖生産確保推進事業(海面防疫対策)(指導事業)	養殖環境		H12~	国庫補助
・ 養殖漁場の適正利用推進調査(モニタリング事業) 1) 養殖漁場の適正利用推進調査(モニタリング事業)	養殖環境		H12~	県単

2. 試験研究課題（2/3）

水産研究部 北部水産グループ所管分（1/2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
1) 基本施策				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発				
・ 海藻（ヒジキ、クロメ、ワカメ等）の新たな養殖技術開発 1) 人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立	養殖環境		H30～R2	県単
II マーケットインの商品（もの）づくりを加速するための技術開発				
・ ナマコおよびアサリ等二枚貝の種苗生産技術開発 1) 高級二枚貝タイラギの種苗生産・増養殖技術・母貝団地造成技術の開発	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H27～	県単委託
2) 養殖カキのシングルシード人工種苗生産	資源増殖		R2	県単
・ 新規養殖種及び増養殖手法の探索 1) 高級キジハタ種苗生産技術開発	資源増殖		R2～4	県単
・ 海藻類、カキ類、エビ類の種苗生産技術及び養殖技術の研修・指導 1) クロメ養殖推進事業	養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H29～	県単
2) マガキ養殖システムの確立	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H30～R2	委託
3) クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発	資源増殖 養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	R2～4	委託
4) クルマエビ養殖生産向上を目指した環境モニタリング	資源増殖 養殖環境		H30～R2	県単
・ 北部水域における魚病診断及び魚病対策の研究	養殖環境		H12～	国庫補助
III 力強い担い手を育成するための技術開発				
・ 二枚貝の資源動向の把握および回復施策の検討 1) 地域重要魚貝類の資源動向及び回復施策に関する研究	資源増殖		長期	県単
・ 資源に関する基礎調査（モニタリング調査） 1) 資源管理関係事業	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	—	県単
2) 資源評価関係調査	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H12～	委託
3) 資源・漁獲情報ネットワークの構築	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H30～R2	委託
・ ヨシエビ、シャコ、カレイ類等の資源動向調査	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	—	委託
・ 主要河川におけるアユ資源の有効利用手法の開発	養殖環境		R1～3	県単
IV 地域資源の活用と環境対策等の技術開発				
・ アサリ天然稚貝の利用と資源回復推進に関する研究 1) 母貝としての天然稚貝の有効活用・養殖拡大の実証	資源増殖		H30～R2	県単
・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発	養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	—	県単委託
・ 有害生物被害対策 1) 外来魚・カワウ等による食害被害軽減対策指導	養殖環境		長期	県単

2. 試験研究課題（3/3）

水産研究部 北部水産グループ所管分（2/2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
2) 研究分野				
I 実用化研究				
・ 持続的養殖生産確保推進事業（北部水域）（指導事業） 1) 魚病診断と対策指導	養殖環境		H12～	国庫補助
II 基礎調査研究				
・ 豊前海アサリ資源量調査 1) ナルトビエイ出現調査	資源増殖		—	委託
・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査	資源増殖		—	県単
・ 資源環境に関するデータの収集、情報の提供（浅海定線調査、情報提供等）	資源増殖 養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	長期	県単 委託
・ 天然アユ等のモニタリング 1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ等)	養殖環境		H21～	県単
・ 河川環境モニタリング 1) 漁場環境保全推進事業（内水面）	養殖環境		H22～	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
おおいたアクアニュース No. 51	R2. 7. 27	16	ホームページで公開
おおいたアクアニュース No. 52	R3. 1. 22	17	ホームページで公開

（2）学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻（号）	掲載頁
Ryo Sugimoto . Akihide Kasai . Douglas R. Tait . Takahito Rihei . Takeru Hirai . Kazuyoshi Asai . <u>Yuji Tamura</u> . Yoh Yamashita	Traditional land use effects on nutrient export from watersheds to coastal seas	Nutrient Cycling in Agroecosystems	119(1)	7-21
横山純一、堤憲太郎、竹尻浩平	2019年の大分県豊後水道におけるクロサバフグの大量出現	黒潮の資源海洋研究	第22号	7-11
福田穰	レンサ球菌症 [ラクトコッカス・ガルビエ感染症]	養殖ビジネス	58(3)	4
福田穰	細菌性溶血性黄疸	養殖ビジネス	58(3)	5
吉田 光男、島崎洋平、 <u>井口 大輝</u> 、 <u>中里 礼大</u> 、Xuchun Qiu、向井 幸樹、Herminio FOLONI-Neto、加藤宏晴、本田 清一朗、大嶋 雄治	クロロフィル蛍光特性を利用した有害プランクトン検出センサーの開発と有害赤潮連続モニタリングへの応用	九州大学大学院農学研究院紀要	in press	
Tomoyuki Shikata , Goh Onitsuka , Hiroshi Shono , Makiko Hirai , <u>Daiki Inokuchi</u> , Kazuyoshi Miyamura	Meteorological factors influencing timing and magnitude of bloom by the noxious dinoflagellate <i>Karenia mikimotoi</i> in two bays of the Bungo Channel, Japan.	Japan Agricultural Research Quarterly	in press	
玉城泉也、藤吉英次、阿部真比古、小林正裕、松岡聡、濱竹芳久、山下博和、 <u>伊藤龍星</u> 、原朋之	日本各地から採集した希少アマノリ類 マルバアサクサノリ <i>Pyropia kuniedae</i> およびイチマツノリ <i>Pyropia seriata</i> (紅藻綱ウシケノリ目) のDNA分析	DNA 多型学会誌	28(1)	9-15

※下線は当センター該当職員

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R2. 10. 28	令和2年度太平洋中・南ブロック資源海洋調査研究会	横山純一	2019年の豊後水道域におけるクロサバフグの大量出現
R3. 2. 4	2020年度愛媛大学沿岸環境科学研究センター協同利用研究集会	井口大輝	令和2年度大分県海域における赤潮発生状況
R3. 3. 20	令和3年度日本魚病学会春季大会	菊本辰善、吉井啓亮、村瀬直哉、山田英俊、福田穂、野崎玲子、廣野育生、近藤秀裕	ヒラメエドワジエラ症に対するペプチドグリカンおよびpolyICのアジュバント効果の検討
R3. 3. 26	令和3年度日本水産学会水産増殖懇話会第1回講演会 光が彩るヒラメ・カレイ類養殖	都留久美子	ヒラメ養殖における緑色光の照射効果

※下線は当センター該当職員

（4）研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和2年度農林水産部普及活動・研究成果報告会	R3. 1. 19	県庁舎本館4階第一応接室	1	20
令和2年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	R3. 2. 5	ホルトホール大分	14	49
令和2年度 若手研究員研修「各所属代表若手研究員による研究内容の紹介」	R3. 2. 19	農業研究部花きグループ2階会議室	2	17

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 5. 27	佐伯湾 赤潮講習会	大分県漁協佐伯支店	7	主催：大分県漁協佐伯支店後継者協議会
R2. 5. 28	注射ワクチン接種技術講習会	水産研究部	3	主催：水産研究部
R2. 6. 28	かかちネイチャーファミリーデイズ	豊後高田市	47	主催：大分県立香々地青少年の家
R2. 7. 7	豊後水道北部海区漁業運営委員長・3市水産主務課長連絡会議	大分県白杵土木事務所	24	主催：水産研究部
R2. 7. 23	体験型子ども科学館オーラボ 科学体験講座	大分市	36	大分県教育委員会
R2. 7. 28	豊後別府湾ちりめん協議会総会	JF 大分別府支店	15	主催：豊後別府湾ちりめん協議会 事務局：大分県漁業協同組合
R2. 8. 6	トラフグ標識技術指導	漁業公社	12	主催：大分県漁業公社
R2. 8. 20	東国東・別府湾地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議	大分県国東総合庁舎	28	主催：北部水産グループ
R2. 8. 24	豊前海地区漁業運営委員長及び市水産主務課長会議	北部水産グループ	22	主催：北部水産グループ

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R2. 8. 26	豊後水道南部海区漁業運営委員長・市水産主務課長連絡会議	大分県漁協 佐伯支店	21	主催：水産研究部
R2. 10. 21	愛媛県・大分県タチウオ釣り漁業者意見交換会	愛媛県南予地方局 八幡浜支局	32	大分県漁業協同組合
R2. 10. 29	水産用医薬品の適正使用等に係る講習会	大分県漁協 佐伯支店	47	主催：水産振興課、水産研究部
R2. 11. 13	大中小型まき網漁業と三崎漁協一本釣り漁業との操業に関する協議	愛媛県南予地方局 八幡浜支局	29	愛媛県農林水産部水産局水産課
R2. 11. 26	トラフグ養殖部会講習会	大分県漁協 下入津支店	17	主催：大分県水産養殖協議会
R2. 11. 30	魚群調査法及び標識放流調査方法講習	JF 大分 津久見支店	7	主催：臼津まき網青年部、中部局要請
R2. 12. 2	魚群調査法現地指導	千怒漁港	3	主催：臼津まき網青年部、中部局要請
R2. 12. 18	大分県漁業学校（養殖基礎技術、魚類栄養学、漁場調査、赤潮診断技術、栽培漁業、漁場整備、魚類・海藻生態学、水産資源調査（調査船「豊洋」見学）	水産研究部	3	主催：大分県漁業協同組合、水産振興課
R3. 2. 4	魚病研修会（トラフグ粘液胞子虫性やせ病検査）	水産研究部	5	主催：水産研究部
R3. 2. 10	注射ワクチン接種技術講習会	水産研究部	5	主催：水産研究部
R3. 2. 10	サワラ漁業者検討会	大分市	18	大分県漁業協同組合
R3. 2. 13	ハモ漁業者検討会	大分市	25	大分県漁業協同組合
R3. 2. 17	豊後灘海面利用地区協議会	国東市	9	豊後灘海面利用地区協議会
R3. 2. 25	アサリ養殖協議会報告会	中津市	16	大分県漁業協同組合中津支店
R3. 3. 12	佐賀関一本釣りと臼津まき網漁業との調整会議	大分県臼杵土木事務所	20	大分県漁業協同組合
R3. 3. 13	令和2年度大分県タチウオ漁業者検討会	大分県水産会館	23	大分県漁業協同組合
R3. 3. 13	豊前海漁業青年協議会研修会	宇佐市	28	豊前海漁業青年協議会

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	3	11
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	1	4
児童・生徒	5	97
海外からの視察者	0	0
その他	4	27
計	13	139

※大学

※小中高校

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
「かぼすブリ」生産体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・「かぼすブリ」は柑橘系養殖魚のブランド魚として、県内外に知られ需要も急増している。今後の確固たるブランドの確立と、生産体制の拡充のため、以下の検討を行う。 ・柑橘系養殖魚は他県でも類似品が出始めている。ブランド化・他県との差別化をより明確にするため、カボス投与の効果の数値化を進める。 ・夏季かぼすブリ生産に向けて、カボスペーストを用いた試験を実施し、カボス投与の効果が出る給餌方法等を検討する。 	<p>①カボス投与効果の数値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぼすブリの脂肪酸分析について高知大学と、臭気成分分析について別府大学と5月に協議し、6月に養殖現場、漁協支店と夏季かぼすブリ生産に向けた協議を行った。 ・カボスペーストを用いた現地試験を7～8月に実施した。 ・リモネンを多く含むカボス果皮チップを用いた試験を11月～12月に実施した。 <p>②生産体制の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月から現地試験を行ったかぼすブリの出荷を開始した。また、9月にかぼすブリ出荷前検査を実施した。 ・令和2年「かぼすブリ」生産量は、3月末現在で、850tと推定されている（漁業管理課データ）。
ヒジキ増養殖の普及	<p>ヒジキ採取量は増加傾向にあるが、過剰漁獲による資源の減少が懸念される。そこで、漁業者が現場でできる増養殖手法を確立し、その普及を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の活動組織が実施しているヒジキ増養殖の取り組みについて指導を行った。 ・宇佐地区では昨年設置したロープから5月にヒジキを収穫して出荷した。今年度も人工種苗ロープを中間育成してから養殖場へ沖出しして経過観察を行った。 ・また、ヒジキブロックを設置して月1回程度の経過観察を行った。 ・今年度から、県南の名護屋地区で建材ブロック設置によるヒジキ増養殖試験を開始した。 ・設置後月1回の経過観察を実施したが、台風や波浪の影響でブロックが逸散してしまった。今年度の結果をふまえ、ブロックやロープの設置方法の検討と現地指導を引き続き行う。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX 番号
農林水産研究指導センター	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
○農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐 65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原 4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦 3456	0972-82-2837	0972-82-5322
落葉果樹チーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐 65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見 710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
○畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住 3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
○林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原 35	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2369	0974-22-4236	0974-22-6850
○水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦 194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
北部水産グループ	879-0608	豊後高田市呉崎 3386	0978-22-2405	0978-24-3061

令和2年度
(2020年度)
大分県農林水産研究指導センター業務年報

令和3年(2021年)7月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052